三重大学国際交流年報 2023

Annual Report 2023

International Activities of Mie University

第10号（通巻第24号） Vol.10

Contents

Ⅰ. 三重大学における国際化および国際交流
Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動
Ⅲ. 国際交流センターの活動
Ⅳ. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援
Ⅴ. 資料

MIE UNIVERSITY

大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
～人と自然の調和・共生の中で～

基本理念（国際化）

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。

目　次
Contents

巻頭言　副学長（国際交流担当）・国際交流センター長
2023年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

Ⅰ．三重大学における国際化および国際交流
1．三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置 …… 03
（1）グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成 …… 03
（2）留学生寄宿舎の整備・留学相談体制を充実させ，安心して学べる環境提供する。 …… 03
2．協定大学との主な国際交流活動 …… 04
（1）Tri-U 国際ジョイントセミナー＆シンポジウム …… 04
（2）コンセクティブディグリープログラム（天津師範大学・中国）…… 04
（3）ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学，パジャジャラン大学・インドネシア）…… 04
3．国際交流事業の経費助成 …… 05
（1）三重大学国際交流事業経費助成制度 …… 05
（2）外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ …… 06
（3）外国人研究者受入れ …… 07

Ⅱ．各学部・研究科等の主な国際交流活動
1．全学共通教育センター …… 08
（1）国際理解実践1：シェフィールド大学国際理解研修 …… 08
2．人文学部・人文社会科学研究科 …… 10
（1）2023年度タイフィールドスタディに関する報告 …… 10
（2）2023年度留学生交流会の報告 …… 13
3．教育学部・教育学研究科 …… 13
（1）大邱教育大学との国際交流活動について …… 13
（2）ホーチミン市師範大学との連携による科学人材育成を目的とした教育研修プログラム …… 14
（3）令和5年度「海外教育実地研究B」（教育学部・学部共通開講科目）の実施 …… 14
（4）ジョホール日本人学校インターンシップについて …… 15
（5）オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施 …… 16
4．医学部・医学系研究科 …… 17
（1）医学部サマープログラム～海外実習の再開を目指して～を開催 …… 17
（2）海外臨床実習医学部生の交換 …… 18
（3）国費優先配置を含めた海外からの大学院留学生等 …… 20
（4）三重大学医学部訪問団ザンビア大学医学部表敬訪問 …… 20
（5）国際医療支援センター講演会 …… 21
（6）インドネシア保健省のスタッフが医学部附属病院で研修 …… 21
（7）インドネシア Airlangga University 医師が医学部，医学部附属病院を訪問 …… 22
（8）ピッツバーグ大学　Dr. Tetsuro Sakai　講演会開催 …… 22
（9）国際化協議会参加（第5回2022年2月，第6回2023年3月）・
国立大学病院長会議将来像実現化WG国際化担当者会議の参加 …… 22

（10）国際関連にご尽力いただいた先生方のご退任　2023年3月 …… 23
（11）グローバルアンバサダー制度によるアンバサダーに医学部より3名就任 …… 23
（12）国際関連学会受賞および発表等 …… 23
5．工学部・工学研究科 …… 24
（1）ダナン大学－ダナン科学教育大学Vo Thang Nguyen先生の活動内容 …… 24
（2）日本型工学教育を活用した高度産業人材育成プログラム …… 25
6．生物資源学部・生物資源学研究科 …… 26
（1）各種JICA教育プログラムの実施 …… 26
（2）インドネシア3大学および国立研究革新庁との交流活動 …… 26
（3）「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」による留学生の受入 …… 27
7．地域イノベーション学研究科 …… 27
（1）第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2023） …… 27

Ⅲ．国際交流センターの活動

1．留学生の受け入れ …… 29
（1）協定校からの交換留学生 …… 29
（2）天津コンセクティブディグリー（接続学位）…… 29
（3）日本語・日本文化研修留学生（日研生）…… 29
2．留学生対象科目・プログラム …… 29
A．日本語・日本文化教育コース …… 31
（1）日本語・日本文化科目 …… 31
（2）市民開放授業 …… 31
（3）日本語基礎講座 …… 31
B．国際キャリアアップコース …… 31
（1）英語による授業 …… 31
（2）海外短期研修（国際交流センター実施）…… 31
3．三重大学国際教育交流活動 …… 33
（1）海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ
日本語と異文化理解2023（日本語ディスカッション） …… 33
（2）国際交流Days …… 33

Ⅳ．留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1．留学生支援 …… 35
（1）在留資格認定証明書代理申請 …… 35
（2）新渡日留学生オリエンテーションの実施 …… 35
（3）私費外国人特待留学生制度 …… 35
（4）奨学金に関する支援 …… 35
（5）留学生への就職支援 …… 36
（6）三重地域留学生交流推進会議の開催 …… 36
（7）日本レジデントアシスタント（RA） …… 36

(8) チューター制度 …… 36
(9) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）…… 36
(10) 留学生研修旅行 …… 36
2．海外留学支援 …… 37
(1) 交換留学生の授業料免除制度 …… 37
(2) 交換留学 …… 37
(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第15期採択結果 …… 37
(4) 奨学金に関する支援 …… 37
3．地域の国際化支援 …… 38
(1) 留学生の地域派遣 …… 38

Ⅴ．資料

1．海外大学等との協定締結機関地図 …… 40
2．学術交流協定大学・機関一覧 …… 42
3．2023年度　国籍別・学部別外国人留学生数 …… 45
4．三重大学生の海外派遣 …… 46
(1) 交換留学による派遣 …… 46
(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣 …… 46
(3) 海外短期派遣・オンライン実施プログラム（部局別）（一部未実施有） …… 47
5．国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績 …… 48
6．歴代国際交流センター長 一覧 …… 52

巻頭言

2023年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

金子　聡
国際交流担当副学長
国際交流センター長

2023年度国際交流年報の発刊にあたり，国際交流担当副学長としてご挨拶を申し上げます。2019年末から突如世界を襲った新型コロナウィルス感染症COVID-19に対し，感染症法上の扱いとして2類相当として様々な行動の制限や対応が求められてきましたが，昨年から季節性インフルエンザと同等の5類へ引き下げられ，2019年以前の日常がようやく戻ってきました。この間，国をまたいだ人の移動が制限され，海外留学を行う学生数や留学生受入数は大幅に減ることになりました。このように，国際活動の制限の一方で，オンラインの利用が大幅に進み，オンラインで海外の講義や講習を受けたり，海外の方と会議を行うことも容易となり，海外との交流の仕方も大きく変わりました。オンラインを活用した取組みとしては，学生に有意義な国際教育と異文化体験を提供するためのCOIL/VE（Collaborative Online International Learning オンラインを活用した双方向の国際共同学習/Virtual Exchange 仮想空間での交流）が注目を集めています。また，日本の国際教育・交流を促進する新しいプラットフォームJV-Campus（Japan Virtual Campus）が2022年から開始され，国際競争力ある教育をオンラインで国内外に開放する活動が進んでいます。

2022年度から国立大学の第四期期間が始まり，折り返しに来つつあります。三重大学では，ビジョン2030を策定し，「三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学」を掲げています。三重大学にとって最も大切な基本理念は，国際社会との繋がりを深め，地域社会との連携を強化しながら，様々な地域・分野で活躍できる人材育成と，世界トップレベル及び独創的な研究を遂行することとなっています。

このような状況の下で，地域・社会・世界とのつながりを通して，行動する力を引き出す教育を行っています。国内外において，グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため，国際共修授業（COIL授業）を充実させるとともに，大学院在籍中に英語による論文作成や研究発表を経験した学生数を増加させています。また，優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために，日本語教育プログラムを充実させていきます。また，海外に興味がある日本人学生を応援しています。その例として，海外の交流協定校への交換留学，春期や夏期の語学研修などのプログラムを提供しており，大学が全面的にサポートしています。

三重大学の国際交流の取り組みやその内容，成果について，ご意見やご要望，ご質問あるいはご批判，なんでも結構ですので何かございましたら三重大学国際交流チームの編集部のほうに是非ご連絡いただけましたらと思います。より実り多い三重大学の国際交流活動となるように皆様のご意見を活かしてゆきたいと思います。

最後になりましたが，寄稿していただきました皆さん，本年報の編集担当者に感謝申し上げます。

Ⅰ 三重大学における国際化および国際交流

1．三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置

（第４期中期目標・中期計画（2022～2027年度））

(1) グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成

（目標）

学生の海外派遣の拡大や，優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化，海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により，異なる価値観に触れ，国際感覚を持った人材を養成する。

（計画）

国内外において，グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため，国際共修授業であるCOIL授業を充実させるとともに，大学院在籍中に英語による論文作成や研究発表を経験した学生数を増加させる。また，優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために，日本語教育プログラムを充実させる。

(2) 留学生寄宿舎の整備・留学相談体制を充実させ，安心して学べる環境提供する。

（目標）

様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため，性別や国籍，年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに，学生が安心して学べる環境を提供する。

（計画）

学生の海外留学及び留学生の受入れに関する取組を推進し，各部局等と連携しながら留学生を含む学生の生活及び修学支援を拡充させる。留学生寄宿舎の整備，及び留学に関する相談体制を充実させる。

2．協定大学との主な国際交流活動

(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー＆シンポジウム

Tri-U国際ジョイント＆シンポジウムは，三重大学（日本），チェンマイ大学（タイ），江蘇大学（中国），IPB大学（インドネシア），廣西大学（中国），メージョー大学（タイ）の6大学が交代でホスト校を務め，毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。2023年度（第29回大会）は，メージョー大学にて12月21日（木）～12月23日（土）の日程で開催され，4カ国8大学から100名を超える学生・教職員が参加した（本学からは学生5名，教職員4名の計9名が4年ぶりに対面参加）。本シンポジウム内では，「人口」，「食料」，「エネルギー」，「環境」，「Agriculture Innovation（開催校が設定）」をテーマに，口頭発表やワークショップが行われた。

口頭発表の様子

フェアウェルパーティーの様子

(2) コンセクティブディグリープログラム（天津師範大学・中国）

三重大学と天津師範大学は，「三重大学と天津師範大学との学術協力・交流に関する一般協定」（2014年11月18日締結）に基づき，共同でコンセクティブディグリープログラムを実施している。コンセクティブディグリープログラムとは，天津師範大学国際教育交流学院に在籍し，三重大学との間における，日本語コース共同教育プログラムに参加している天津師範大学の学生が，三重大学大学院に進学を希望する際に，専門分野や指導教員等のマッチング及び各種情報提供の機会を設ける等，三重大学大学院に進学するための支援を行うプログラムである。2023年度で終了となる本プログラムは，第5期生20名全員の渡日がようやく実現した。

(3) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学，バジャジャラン大学・インドネシア）

ダブルディグリープログラムとは，博士前期課程1年次はインドネシアにおいて，2年次は日本において講義受講と研究を実施し，それぞれの研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの2つの修士の学位が授与される制度である。2008年に生物資源学研究科とスリウィジャヤ大学がダブルディグリープログラムに関する協定を結んだ。その後，2012年にパジャジャラン大学とも協定が結ばれた。2023年度はパジャジャラン大学ダブルディグリープログラム学生1名が在籍している。2023年12月に理事1名教員2名事務員3名でパジャジャラン大学を訪問し，JASSOの協定受入奨学金を獲得したこと等を説明し，プログラムの運営方法について議論した。また，対象コースの学生に対し説明会を実施した。プログラム修了生で再渡日して生物資源学研究科博士後期課程に入学，学位を得て帰国してパジャジャラン大学の教員となった2名をはじめ修了者の多くが参集し，派遣した教員と旧交を温めた。

また2024年3月には教員1名がスリウィジャヤ大学を訪問し，特別講義を行うとともにJASSO奨学金等についてパジャジャラン大学と同様に説明を行い，今後更にプログラムを発展させることに同意した。

パジャジャラン大学での先方教員および三重大学修了生との記念撮影

スリウィジャヤ大学での先方教員との記念撮影

3. 国際交流事業の経費助成

(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度

国際交流推進経費より，国際交流の取り組みに対し1部局あたり50万円，計14件の助成を行った。助成対象案件は次のとおり。

2023年度　三重大学国際交流事業経費助成申請一覧

	部局名	申請代表者	事業名（申請時の名称）	形成プログラム種別	人数	対象国・地域	時期
1	全学共通教育センター	サコラヴスキー　ジェシー	国際理解実践（シェフィールド大学国際理解研修）	■教職員派遣	2名	連合王国	令和6年 2月15日～3月10日
2	人文学部	綾野　誠紀	タイフィールドスタディ　ー国際NGOの活動を通してみるタイの現状と日本ー	■教職員派遣 ■学生派遣	5名	タイ	令和6年 2月16日～24日
3	教育学部	荒尾　浩子	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	■教職員派遣 ■学生派遣 ■国際教育プログラムの開発や推進	18名	ニュージーランド	令和6年 3月2日～18日
	教育学部	服部　明子	言語と文化への理解を深める海外研修「海外教育実地研究B」の実施	■教職員派遣 ■学生派遣	7名	台湾	令和6年 2月14日～19日
	教育学部	宮岡　邦任	海外での教育実習を見据えた日本人学校での教育体験	■教職員派遣 ■学生派遣	4名	マレーシア	令和6年 2月13日～23日

	部局名	申請代表者	事業名（申請時の名称）	形成プログラム種別	人数	対象国・地域	時期
4	医学系研究科	谷村　　晋	看護学科／看護学専攻 2023年度国際交流	■外国からの受入	2名	ドイツ	令和5年 12月20日～23日
5	工学研究科	森　香津夫	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施（継続令和5年度）	■教職員派遣 ■学生派遣	2名	ベトナム	令和5年11月頃
	工学研究科	森　香津夫	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	■その他（国際教育プログラムの開発や推進）	7名 程度	ドイツ，インド，タイ，中国，イタリア，イギリス，フランス，インドネシア，米国，バングラデシュ	令和5年 9月～12月頃
6	生物資源学研究科	中島　千晴	海外協定校における実験実習の実施	■教職員派遣 ■学生派遣	10名	マレーシア	令和5年 9月1日～15日
7	地域イノベーション学研究科	諏訪部圭太	第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業	■外国からの受入	3名	タイ，韓国	令和5年 10月12日～13日
8	国際交流センター	福岡　昌子	海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション2023）	■その他 （オンライン）	21名	協定校	令和5年 11月8日～12月20日
	国際交流センター	福岡　昌子	北京外国語大学：語学研修＆フィールドスタディ2023（オンライン）	■その他 （オンライン）	19名	協定校	令和6年 1月6日～2月7日
	国際交流センター	松岡知津子	海外フィールド研修2023	■教職員派遣 ■学生派遣	15名	協定校	令和6年 3月9日～3月18日
	国際交流センター	正路　真一	サウスカロライナ大学語学・異文化理解研修	■学生派遣	3名	協定校	令和5年 8月21日～9月29日

(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに，教育活動の一層の進展に寄与するため，これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。

短期招へい外国人教員の職務は，①受け入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導，②本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援，③部局専門領域での教育参加のほか，全学共通教育センター及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2023年度の外国人教員短期招へいプログラムは次のとおり。

2023年度外国人教員短期招へいプログラム一覧

	学部・研究科	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間		受入れ教員
1	工学研究科	Vo Thang NGUYEN	ダナン大学	講師	R5.9.10	R5.9.24	久保　雅敬
2	医学系研究科	Chihena Banda	The University Teaching Hospital, Lusaka, Zambia	医師	R5.7.13	R5.8.8	成島　三長
3	生物資源学研究科	Diding Suhandy	ランプーン大学	教授	R5.9.30	R5.10.16	内藤　啓貴
4	生物資源学研究科	Dwi Susilaningsih	インドネシア国立研究イノベーション庁（BRIN）	教授	R5.10. 初旬	R5.11. 中旬	岡﨑　文美
5	国際交流センター	Andre Podzierski	ゲーテ大学フランクフルト	研究アシスタント	R5.9.28	R5.10.14	松岡千津子

(3) 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため，教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は，

① 本学の教授，准教授，講師，助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。

② 原則として1カ月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は，あらかじめ定められた研究計画に従い共同研究に従事している。

2023年度の受入は以下のとおり。

2023年度外国人研究者受入人数

受入部局	人数	国籍内訳
医学系研究科	3	タイ（1名），ドイツ（1名），フィリピン（1名）
工学研究科	6	中国（3名），タイ（1名），インドネシア（1名），イラク（1名）
生物資源学研究科	5	中国（2名），インドネシア（2名），バングラデシュ（1名）
人文学部	1	中国（1名）

Ⅱ 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1．全学共通教育センター

(1) 国際理解実践1：シェフィールド大学国際理解研修

2023年度後期集中講義「国際理解実践1」は，学生を英国に3週間派遣し，シェフィールド大学英語教育センター（English Language Teaching Centre: ELTC）において，他国の学生と共に英語，英国の文化，歴史を学ぶとともに，現地の一般家庭でホームステイを行うことを通して，英語のみの環境での日常生活を体験する国際理解研修を実施する授業である。多様な文化的背景を持つ人々と交流することにより，異文化に対する幅広い理解と異文化間コミュニケーション力を高めることを通して，世界的視野を備えたグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

シェフィールド大学での研修をELTCにおいて2024年2月19日～3月8日に実施し，3学部16名の学生が参加した。受講生の内訳は以下の通りである。

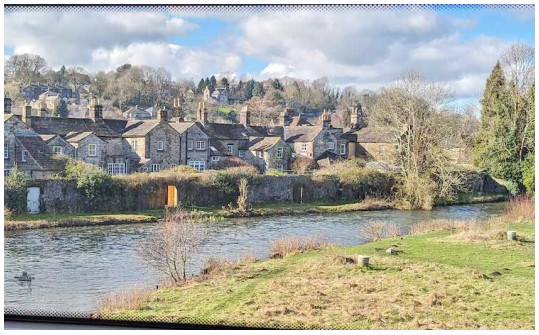
学部＼年次	1年	2年	3年	計
人文学部	0	0	0	0
教育学部	1	1	1	3
医学部	7	0	0	7
工学部	0	0	0	0
生物資源学部	4	1	1	6
計	12	2	2	16

研修には，授業担当者2名の教員が引率し，学修面・生活面の相談に乗るなどの支援を行なった。参加者は，それぞれの語学力に応じたクラスに登録し，他大学から研修を受けに来ている多国籍の学生との混合クラスで研修を受けた。研修内容としては，ELTCの教員によるリーディング・ライティング，スピーキング・リスニングに関する講義の受講と日帰り研修旅行が提供された。また，研修のプログラムには含まれないものの，ELTCやシェフィールド大学において提供されている課外活動への参加を通して，現地の学生と交流を深めた学生もいた。

なお，研修期間中は，ELTCと連携しているホームステイ団体による支援を受け，現地の一般家庭にホームステイを実施した。

シェフィールドに向かって

ピーク地方国立公園



市場町のベイクウェル

研修の伝統：ELTCの前で集合

ハードウィック・ホール
（日帰り研修旅行）

シェフィールド大学での授業風景
（プライバシーの関係で過去の写真を再掲）

帰り道で疲れが現れない
（帰国時の関西空港にて）

海外研修に関するアンケート結果

海外研修に対する学生からの評価は以下の通りであり，概ね良好な結果であった。シェフィールド大学の英語教育センターは，イギリス国内最大規模で，外部委託ではなく大学独自で運営され，その研修の質の高さには定評がある。総合的な満足度では，そのことが評価されていると考えられる。また，英語のリスニング力やスピーキング力が向上したと高く評価されているのは，同センターの実践的な研修内容に起因すると考えられる。また，同センターが，長年，地元のホームステイ団体からの協力を得ながら実施しているホームステイが，非常に高い評価を受けている。ホームステイに対する学生の満足度の高さは，国際交流に関心のある家庭が紹介されていることによるものであると考えられる。

アンケート結果（2024年3月21日現在）【回答者数12名，1：全く当てはまらない～5：とても当てはまる】

海外研修に関するアンケート結果	平均
A. 総合して，海外研修に満足できた。	4.9
B. 海外研修前の学内オリエンテーションは適切で合った。	4.3
C. 海外研修を通して，英語のリスニング力が向上したと思う。	4.8
D. 海外研修を通して，英語のスピーキング力が向上したと思う。	4.8
E. 海外研修を通して，英語のリーディング力が向上したと思う。	4.2
F. 海外研修を通して，英語のライティング力が向上したと思う。	3.8
G. 海外研修の授業外活動に満足できた。（ELTC提供）	4.3
H. ホームステイに満足できた。	4.8

研修に関する感想（一部抜粋）

・I spent my days productively. I could learn not only English but also British culture and history. I have also developed a sense of independence by planning my own trips and acting in unfamiliar places.
・My speaking and listening skills have improved though this program.
・There are people from many different countries and cultures in [the classes at ELTC], so they are very interesting.
・I feel that I was able to acquire more English skills in that environment because there were people from various backgrounds in the class and the only way to communicate with them was to speak English. Also, since our English is not perfect for each other, I think we could get to know each other better by thinking about what they wanted to convey.

来年度の受講生に向けてのメッセージ（一部抜粋）

・You may hesitate to go abroad for a month, but I want you to take the plunge. Even if you can't speak English perfectly, the people over there will try to understand you, and you will gradually get used to it and become able to speak little by little. First of all, it is important to be confident, so please participate.
・This experience will be invaluable. [It] will help to develop not only your English language skills but also your ability to take action and your autonomy. Try lots of things in England!
・I'm sure that this program will make you stronger as a person. Please try to talk to foreign students, not only Japanese. They are very kind and friendly. Be brave!!

２．人文学部・人文社会科学研究科

（1）2023年度タイフィールドスタディに関する報告

タイの国際NGOでの研修や現地学生との交流を通して，タイの現状と，そこから見えてくる日本を含む先進国の姿を知ることにより，各種メディアや文献だけでは知ることができないタイを含む東南アジアへの理解を深めることを目標として，以下の内容の研修を行った。

【目標】

以下の2点を今回のタイフィールドスタディの目標とした。

1. 国際協力型と政策提言型NGOが取り組んでいる課題に基づき，タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に，日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

【参加者】

タイフィールドスタディの参加者は以下の通りである。
綾野　誠紀（リーダー，人文学部・教授）
土井　利幸（ガイド・通訳，NGO法人メコンウォッチ理事）
人文学部　学部生5名（文化学科2年生3名・4年生1名，法律経済学科2年生1名）

【スケジュール】

現地でのフィールドスタディに先駆けて，計2回の事前研修を行った。事前研修はNGO法人メコン・ウォッチ理事土井利幸氏が担当した。また，現地での活動を円滑に行うために打ち合わせを2回行い，詳細な研修用のマニュアルを参加学生が作成した。

a. 事前研修：

第１回　2023年12月 6日　12:10-13:40
「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」
第２回　2024年 1月25日　13:00-14:30
「タイの市民社会：NGOの役割」

b. 打ち合わせ：

第１回　2023年11月22日　14:30-15:30
第２回　2024年 2月 5日　14:30-16:00

c. 研修内容及び日程：

2月16日（金）　中部国際空港→スワンナプーム空港
2月17日（土）　クレット島研修（ノンタブリー県パーククレット郡）
2月18日（日）　NGOでの研修
（貧困高齢者問題：for Oldy，バンコク市内サトーン地区）
2月19日（月）　国際NGOでの研修
（貧困問題：シーカアジア財団，バンコク市クロートーイ地区）
2月20日（火）　班別探究活動（バンコク市内）
2月21日（水）　協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）
2月22日（木）　午前：バンコク国連事務所での研修（ビジネスと人権）
午後：バンコク市内研修（タイの歴史）
2月23日（金）　班別自由活動，振り返り（バンコク市内）
2月24日（土）　スワンナプーム空港→関西国際空港

【参加者の感想・振り返り】

参加学生はそれぞれ目標を設定し，事前学習をすることにより効果的な研修であった。以下のような振り返りがあった。

・タイフィールドスタディで得た，知識だけでなく五感で感じることによる経験は，私自身に深く刻みこまれ，今後の人生において迷ったとき，私を導いてくれるだろう。
・今回のタイフィールドスタディを通して，目標であった「新たな価値観を手に入れること」が達成できたように思う。9日間の研修で様々な「はじめて」を経験して，確実に自分の世界が広がった。そのように成長できたからこそ，このまま終わってはいけないとも感じる。この経験をこれからの自分の価値観形成につなげていくことで，より意義のあった研修となる。
・この研修で，自分一人では絶対にできないような貴重な体験をすることができ，生きる力になりました。
・（バンコクの貧困地区の）住民の間には強い信頼関係があり，何かあっても助け合うことができるというセーフティーネットを持っている。（日本でも）今一度地域との関わり方を見直す必要性があると強く感じた。
・自ら意思疎通を図り，会話のキャッチボールをしていく中で，国際協力というものは意外にシンプルなもので，相手を受け入れて会話を試みることが最も重要であり，そこから始まるのではないかと考えさせられた。

【タイフィールドスタディ写真】

バンコククローントイ地区（スラム）

バンコククローントイ地区（シーカ財団絵本図書室）

タイ史の講義担当のピヤワン准教授（タマサート大学）

タマサート大学の学生との交流

スラム住民訪問（バンコク市内サトーン地区）

住民との交流（バンコク市内サトーン地区）

国連開発計画，佐藤暁子リエージンオフィサーによる講義

バンコク国連事務所

(2) 2023年度留学生交流会の報告

コロナ禍で途絶えていた人文学部の留学生交流会を4年ぶりに開催した。計6か国から来日した多彩な留学生の参加があった。参加者による自己紹介や，お国自慢の紹介などを交えて，有意義な交流の場とすることができた。

【日時・会場】2024 年 1月 24 日（水）18:00～20:00。会場は翠陵会館の「ぱせお」。
【参加者】留学生（人文学部，人文社会科学研究科）18 名（内訳は，中国12名，韓国1 名，フランス2名，ドイツ1名，スウェーデン1名，ブルガリア1名）
日本人学生（人文学部） 6名，教員（人文学部）8名

3．教育学部・教育学研究科

(1) 大邱教育大学との国際交流活動について

大阪教育大学，三重大学，そして韓国の大邱教育大学の3つの大学が共同で，ビデオ会議を活用した英語によるオンライン交流を実施した。三重大学では，英語教育コースに在籍する75期生の13名の学生全員が，「キャリア教育」の授業の一部として参加した。このプロジェクトは，未来の英語教師を対象とした3つの異なる地域間のオンライン交流という独創的な取り組みであり，英語教師のトレーニングにおける学生の国際的な経験を最大限に活用することができた。

プロジェクトの動機
・英語教師トレーニングの重要な使命
・学生の国際経験を最大化することの重要性
・オンラインおよびオフラインのプログラムの開発

交流セッションの実施 2023年5月に以下の日程で3回の交流セッションを実施した：
1回目: 5月10日
2回目: 5月17日
3回目: 5月24日

交流の内容 学生たちは小グループでオンラインを通じて，以下のトピックを中心に英語で交流を行った：
・自己紹介
・教育システム
・英語教師教育に関する議論

交流の成功と課題 全体として，交流は成功し，参加した学生たちは会話を楽しむとともに，英語がコミュニケーションの一つのツールであることを実感することができた。一方で，ICT機器やネットワークなどの問題があり，これらは今後のオンライン交流の実施に向けて改善すべき課題となっている。

(2) ホーチミン市師範大学との連携による科学人材育成を目的とした教育研修プログラム

日本科学技術振興機構「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け，令和5年11月8日（水）から15日（水）にかけて，「科学人材育成を目的とした教育プログラムに関する研修」を行なった。三重大学の協定校であるホーチミン市師範大学の学生9名（うち大学院生2名）と教員1名を三重大学に招へいし，三重県内のスーパー・サイエンス・ハイスクール（津高等学校，四日市高等学校）への学校訪問や，博物館・科学館への訪問を行なった。今回のプログラムでは，三重大学で実施している「ジュニアドクター育成塾」の受講生との交流や，三重大学教育学部の授業への参加を通して，子ども達の能力を引き出す理科の指導法について考えることを目的とした。

今回はジュニアドクター育成塾の受講生3人による「ミニ研究発表会」が行われ，日本語や英語で行われた研究発表に対し，招へい者達から多くの質問やアドバイスが寄せられた。翌日には，招へい者達は受講生達（希望者のみ）と共に名古屋市科学館を訪問し，いくつかのグループに分かれて科学館の様々な展示物を楽しんだ。

招へいした学生達は卒業後に主に高校の理科教員を志望しており，ベトナムの理科教育のこれからの在り方に高い関心を持つ学生達である。本プログラムで学んだことがベトナムの理科教育の発展に貢献するものと期待している。

ジュニアドクター育成塾の受講生達と名古屋市科学館を訪問

(3) 令和5年度「海外教育実地研究B」（教育学部・学部共通開講科目）の実施

近年，三重県では，日本語指導が必要な外国人児童生徒等の在籍率が増加している。教育学部では，教育現場で急増する外国人児童生徒への日本語指導に関連して日本語教育科目を設定している。本授業は，台湾（高雄市）における海外体験を通じ，日本語教育，母語・継承語教育，多文化共生への理解を深めることを目的として，令和2年度に新設した。

しかし，初年度から令和4年度にかけては，新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた。その間，代替的に海外の日本語教育に関するオンラインによる講演会とワークショップ，学生交流を行ったが，現地研修を伴う開講は，今年度が初の実施となった。

履修学生は7名であった。所属コースおよび学年は，家政教育初等コース3年2名，国語教育中等コース1年2名，国語教育初等コース1年1名，学校教育コース教育心理学専攻1年1名，教育学研究科教職実践高度化教育実践1年1名であった。

後期の授業として位置付け，前半（第1回～第6回）は，授業スケジュールに従い，教員3名が担当する講義やオンラインによる現地受け入れ関係者からのレクチャーなどによって，日本語教育史，年少者日本語教育，異文化理解やコミュニケーション，現地台湾に関する基本的な知識を身につけた。また，各自，研修を通して学びたいテーマを自ら決定し，フィールドワークによって調べる内容や方法などを検討し，事前の計画を立てた。

後半（第7回～第15回）は，2024年2月14日（水）～2月19日（月）にかけ，台湾・高雄市において，研修を行った。高雄日本人学校の見学，公益社団法人日本台湾交流協会高雄事務所の見学，國立高雄餐旅大學旅館管理系・蘇紋槿氏および高雄文化協会，高雄市政府文化局（高雄市立博物館）による歴史文化体験プログラムの実施を行った。また，各学

生は自らの学習テーマについて，文藻外国語大学の学生によるサポートを得ながら調査を行い，双方の交流を深めた。

多角的に異なる言語・文化に触れ，実地で学ぶ機会により，日本とアジアを相対的に捉え，異なる文化や言語への理解，異文化理解能力を高めることができた。また，海外の日本人学校において授業見学ができたことは，教員養成課程における実践につながる非常に貴重な体験となった。

(4) ジョホール日本人学校インターンシップについて

在外教育施設（日本人学校）においてインターンシップを行った。国際理解教育ができる教員の養成，多文化共生（多様性）の理解を深めることを主眼において実施した。

1　実施期間　令和6年2月12日～24日

2　参加学生　国語教育コース　3年生，家政教育コース3年生，英語教育コース2年生　計3名

3　在外施設　マレーシアホールバル　ジョホール日本人学校

4　選定理由　マレーシアはマレー系，中国系，インド系の民族が暮らす多民族国家であり，生活習慣，宗教はそれぞれの民族の伝統を守りながら互いの文化を尊重しあっている。言語はそれぞれの民族同士ではマレー語，中国語，ヒンディー語が使われ公用語はマレー語であるが，共通語として英語が使われている。

ジョホール日本人学校は小中併設校であり，自前の校舎，体育館，プール，グラウンド等を有する学校で，コロナ渦前は100名を超える児童生徒が在籍していたが，多くの家族が帰国を余儀なくされ現在は70名程となっている。在籍する子供たちは様々で10年以上マレーシアで暮らしている子供たちや，親の転勤に伴い海外の日本人学校をいくつも転校している子供もいる。多文化共生社会の中でこのようなバックグラウンドを持つ子供たちと関わることは，日本では決してできない経験であり将来教員となったとき必ず役に立つものと考える。

5　活動内容　基本的に毎日割り当てられたクラスの授業参観，授業アシスタント，社会見学引率，教材研究などを行い，最終週には研究授業を行った。また，現地の現地校を訪問して学生と交流をしたり教員との懇談を行い現地教育の理解を深めた。さらに休日は市内のモスクや寺院，名所旧跡を訪ねジョホールバルの文化歴史についても学んだ。

6　参加学生の帰国報告から抜粋

Aさん：今回のインターンシップを通して，自分が今までに経験したことのない生活を送っている児童と実際に関わることで新たな発見や気づきを得ることができた。教員になる前に様々なバックグラウンドを持った児童と関わることはとても大切なことだと感じたので，これからも積極的に様々な児童と関わりたいと思った。

Bさん：今回のインターンを通して，在外教育施設の特徴や日本の学校との違い，教員としての子どもとのかかわり方や授業について学ぶことができた。この経験を活かして，自分が大切にしたいと思う他者への意識や子どもとの信頼関係などを教員になった時にどのように子どもに伝えるか，どうコミュニケーションをとっていくかを今一度考えたい。

Cさん：このインターンシップで得た，海外での教育や授業の工夫，多文化社会，英語教育など，数多くの学びを，これからの学生生活や教師となったときに活かしていきたいです。また，このインターンシップを通して教職の良さを実感することができました。

最終日に子どもたちからもらったプレゼントは私の宝物です。一人一人に合わせた指導ができる教師となれるよう，より一層努力していきたいと思います。最終日に参加した学生はもとより子供たちが「帰らないでほしい，また来てほしい」と互いに涙を流しながら別れを惜しんだことが成果を表している。
課題として現地の祝日（旧正月）の関係で実施時期を検討する必要がある。
また，成果を踏まえて地域や参加人数を広げていきたい。

現地校訪問

授業研究

(5) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

教育学部ではニュージーランドのオークランド大学教育・福祉学部との連携により，2011年度より海外実地研修を実施している。現地の学校訪問やオークランド大学教育学部の授業に参加，多文化教育，幼・小・中・高の学校訪問を通して，異なる教育のあり方，教育システムを学ぶことができる教育研修プログラムである。今年度は教育・福祉学部のキャンパスの移転とオークランド大学のショートプログラムの担当者の変更に伴い新たなプログラム内容として3月2日から3月18日まで，教育研修を実施した。参加学生は16名（学部生10名，大学院生6名）で，2名の教員があたり第11回目の実施となった。

プログラムを通して参加学生は，多様性に溢れ，多文化を尊重する社会のあり方やそれを反映した学校教育，個を尊重し能力を伸長する授業，教育環境，ICTを活用しつつアナログ的な活動を融合した教育活動など，多くを体験的に学ぶことができた。大学の授業や現地の学校現場の先生方の説明や教育姿勢から多くの知識を獲得し，教育観を拡充することで，教員としての資質を豊かにすることに繋げることができた。参加学生はホストファミリーをはじめとする現地の方々と活発な交流し，国際交流に資する経験となった。

Intermediate School訪問で説明を受ける学生

Primary Schoolの授業の様子

4．医学部・医学系研究科

医学部では，国際通用性のある能力を持って地域に貢献する医師，グローバル社会に共通する医療課題の解決に取り組む医学研究者の養成を目的に，専門英語教育，海外での体験的学習機会の提供，学内教育環境の国際化に取り組んでいる。外国人教員，国費外国人留学生優先配置制度で留学中の外国人医師で構成される教員チームによる英語教育やICTを活用した海外研究者による最先端研究に関する講義，海外からの短期招へい研究者による講演会などを実施している。

本邦では，医学教育の国際標準化を目指して世界医学教育連盟の基準による医学教育分野別認証評価制度が開始されており，本学も今年度教育カリキュラムや評価システムに基づき今年度も報告している。（2022年度分も一部併記）

(1) 医学部サマープログラム～海外実習の再開を目指して～ を開催

2022年8月6日（土）～7日（日），三重大学医学部臨床第一講義室及びwebのハイブリットで，ポストコロナにおいて海外実習の再開を目指した講演会とワークショップが医学部の学生23名が参加して開催されました。

感染に注意しながら，徐々にお互いの交流を推進する重要性についてのお話がありました。

Summer Program in Mie University Faculty of Medicine

- Toward re-starting international health electives after COVID-19 pandemic -

8月6日（土）

13:00-13:30　ご挨拶・サマープログラム概要の紹介
　堀　浩樹先生（三重大学医学部長 / 医学・看護学教育センター）

13:15-14:00　医学部海外臨床実習の紹介　　司会：成島　三長先生
　堀　浩樹先生

14:15-15:15　講演会「ザンビアの医療事情」　司会：澤田　博文先生
　Jane Chanda Kabwe先生（Ministry of Health, National Heart Hospital）

15:15-17:00　ワークショップ
　1. 海外臨床実習をデザインする
　2. 海外実習での感染対策・危機管理を考える

17:30-18:00　留学生との交流会（ザンビア・ミャンマーなどからの留学生）

8月7日（日）

9:00-10:00　海外で働く先輩によるオンライン講演会　司会：堀　浩樹先生
　「私の歩んできた道」 Dr. Takaya Moriyama（Oncology R and D at Daiichi Sankyo, Inc., USA ）

10:15-11:50　海外実習参加者による体験談
　1. 米国・ワシントン大学【15分】　司会：島本　亮先生（呼吸器外科）
　　篠田　真理先生（三重大学医学部附属病院 呼吸器外科）
　2. タイ・コンケーン大学【30分】　司会：櫻井洋至先生（上野総合市民病院 副院長）
　　Dr. Jutarop Phetcharaburanin（Assistant Dean for research and International Affairs）
　　貝沼　由美 先生（三重大学医学部附属病院 循環器内科）
　　Dr. Kringsak Khamloy（コンケーン大学 チーフレジデント）
　3. イタリア・ペルージャ大学，タイ・タマサート大学【20分】　司会：櫻井　洋至先生
　　Dr. Stefano Lucentini（ペルージャ大学）
　　Dr. Yanisa Kongthaptham（タマサート大学）
　4. フィリピン・フィリピン大学 レイテ校【15分】　司会：堀　浩樹先生
　　向原　千夏先生（滋賀家庭医療学センター）
　5. ガーナ・ガーナ大学【15分】　司会：堀　浩樹先生
　　栗原　康輔先生（三重県立総合医療センター・小児科）

11:50-12:00　総括　西村　有平先生（三重大学医学部教務委員長）

(2) 海外臨床実習医学部生の交換

COVID19の影響もあり，2022年度は海外からの交換留学生受け入れのみとなったが，(1) の開催後，2023年度は，三重大学国際交流推進経費の助成を受けて，以下の海外臨床実習，早期海外体験実習，海外交換学生の本学への受入れを実施した。

2022年度海外交換留学生受け入れ

・アムリタ大学（インド）1名・・・12/5-12/28・コンケン大学（タイ）3名
・カーディフ大学（英国）4名

2023年度海外臨床実習

39名の第6学年学生が参加し，実習大学は，・ワシントン大学（アメリカ合衆国）5月　6名・タマサート大学（タイ）4月　5名・フィリピン大学レイテ保健学部（フィリピン）4月　2名・アムリタ大学（インド）5月　2名・ムヒンビリ大学（タンザニア）4月　7名5月　4名・ザンビア大学（ザンビア）5月　5名・シャルジャ大学（UAE）4月　2名5月　2名・カーディフ大学（イギリス）5月　4名の計8大学であった。

2023年度第1-4学年学生対象早期海外体験実習

合計8名・ワシントン大学（アメリカ合衆国）4名（3年生4名）　8/27-9/2・コンケン大学（タイ）および健康科学大学（ラオス）4名（3年生3名，2年生1名）が参加した。

2023年度海外からの学生受け入れ

合計8名・アムリタ大学（インド）2名　5/10-6/9・タマサート大学（タイ）1名　9/17-10/14・コンケン大学（タイ）1名　4/3～4/28　1名　11/21-12/12　1名　2/19-3/15　1名　3/18-3/29・ペルージャ大学（イタリア）1名　8/21-9/15，カーディフ大学（UK）4名　2/20-3/17の受入れを行った。

各実習生は三重大学の胸部心臓血管外科，産婦人科，肝胆膵・移植外科，神経内科，整形外科，循環器内科，消化管・小児外科学，皮膚科，アレルギーリウマチ科，血液内科，腫瘍内科・がんセンター，放射線科，乳腺外科，救命救急，小児科，形成外科など，様々な科での実習を行った。また，三重大学の医学部生との交流活動も行った。

大学院医学系研究科が実施する外国人留学生国際推薦制度と学部での本事業により，双方向性の国際交流が今後も継続されることが期待される。

a　カーディフ大学からの留学生実習

カーディフ大学実習生からの実習についての感想

Ka Ching Genie Wu先生

The past four weeks of practical training at Mie University hospital has been an eye-opening experience.

I got the opportunity to rotate between the departments of dermatology, oncology and radiology.

During my time here I have met many members of staff who were experienced experts in their field who taught me very valuable knowledge such as new cancer treatments that were being used for the first time in the hospital, as well as witnessing specialist interventional radiological procedures.

Both students and staff were extremely kind and accommodating and went out of their way to provide their support, despite English not being their first language.

It was also very interesting to learn about the differences in the education and health systems between Japan and the UK.

This has been a really enjoyable experience- I would like to thank everyone involved in organizing this exchange programme and I am looking forward to welcoming the local students in Cardiff later this year.

上記三重大学医学部6年生の海外臨床実習報告会を2023年7月21日に開催した。

早期海外体験実習報告

2023年8月，アメリカ・テキサス州ヒューストンにあるUTHealth McGovern Medical Schoolで3週間の研究室研修を行いました。UTHealthHouston Center for Stem Cell& RegenerativeMedicine幹細胞再生医療センターで，人iPS細胞を用いた気管・肺のオルガノイドに関する研究室に所属し，Sarah先生の下，3D細胞培養やスライドガラス作成，免疫染色，FACSなどの幹細胞に関する実験手技を学びました。通常の細胞培養に加えて，肺基底細胞に分化させる具体的な工程や，分化のそれぞれの段階に適した培地やプレートの使い方および培養の仕方，3D細胞培養特有の手技など，人iPS細胞を用いた実験手技獲得とともに，マウスに対する幹細胞を用いた気管移植の見学を行うことができ，再生医療の実臨床応用化に向けた研究内容に触れました。

(3) 国費優先配置を含めた海外からの大学院留学生等

国籍別入学者数

2022（令和4）年度					
国名	医科学（修士）	生命医科学（博士）	看護学（博士前期）	看護学（博士後期）	
中国	0	2	0	0	2
ザンビア	0	1	0	0	1
タイ	0	1	0	0	1
インドネシア	0	0	0	1	1
計	0	4	0	1	5

2023（令和5）年度					
国名	医科学（修士）	生命医科学（博士）	看護学（博士前期）	看護学（博士後期）	
中国	0	1	0	0	1
ガーナ	0	2	0	0	2
ザンビア	0	1	0	0	1
計	0	4	0	0	4

(4) 三重大学医学部訪問団 ザンビア大学医学部表敬訪問

長年のパートナーシップを結ぶザンビア大学を訪問し，今後の学術交流の推進に向けての協議等を行なってきました。最近指導したザンビア大学からの留学生がザンビア帰国後に活躍中であることから，肝胆膵・移植外科　水野教授（Dr. Chipaila Jacksonを指導）と小児科澤田（Dr. Jane Kabweを指導）で訪問しました。そして，形成外科・成島教授の指導を受け最近帰国したDr. Banda Chihenaがザンビア大学で進める「ザンビアへのマイクロサージャリー技術移転プロジェクト」に協力いただいている四日市北ロータリークラブのメンバーの方々も三重大学訪問団に同行されました。

Ⅰ．日程2023年6月10日（土）～6月17日（土）

Ⅱ．訪問メンバー

堀　　浩樹（医学系研究科長）　　水野　修吾（医学系研究科肝胆膵・移植外科学　教授）

澤田　博文（医学系研究科小児科学　講師）　　成島　三長（医学系研究科形成外科学　教授）（オンライン）

Ⅲ．活動内容

6月11日　18：00～　〈報告〉ザンビア大学医学部訪問

6月12日

1. ザンビア大学医学部訪問　9：00～　Prof. Evans Mpabalwani　医学部長表敬訪問
2. 在ザンビア日本大使館訪問　14：00～
   大使表敬，医務官との意見交換　在ザンビア日本国大使館　特命全権大使
   竹内　一之 氏，一等書記官兼医務官　遅野井　雄介氏　二等書記官　松浦謙二 氏
3. ザンビアJICA事務所訪問　16：00～
   独立行政法人国際協力機構（JICA）ザンビア事務所所長　米林徳人氏　次長泉恵太 氏
   企画調査員　芦田しのぶ 氏

6月13日

1. 国立心臓病院訪問　8：30～9：30　National Heart Hospital（Tour）（Dr. Jane Kabweが勤務している病院）
2. レヴィ・ワナワサ 医科大学訪問　10：00～11：00
   Levy Mwanawasa Medical University（LMMU）and its Teaching Hospital（Tour and Meeting with the Dean）（Dr. Chipaila Jacksonが勤務している新設医科大学附属病院）
3. ザンビア大学附属病院見学　11：30～12：30
   University of Zambia, School of Medicine and the University Teaching Hospital（UTH）.（本学協定校，Dr. Chihena Bandaが勤務している病院）

4. ランチタイムセミナー　13：00～14：00
Lunch hour Seminar（Topic：Opportunities about Studying at Mie University Japan：15－30 minutes, then Question and Answers：15minutes）

プログラム

(1) Mpabalwani医学部長からのセミナー開催趣旨説明・国費外国人留学生優先配置プログラムの紹介（10分）
(2) 三重大学への国費外国人留学生優先配置プログラムと大学院での研究の実際について（澤田，15分）
(3) 三重大学肝胆膵外科での大学院での研究（水野教授，15分）
(4) 留学とキャリア形成について（Kabwe医師）対面とザンビア国内の主要病院へのWEB配信により約80名の参加があった。

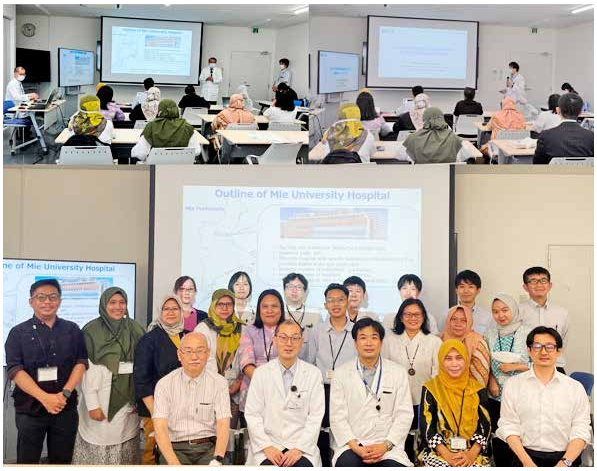
詳細は，医学部news 192号参照　https://www.med.mie-u.ac.jp/social/pubmaga.html

(5) 国際医療支援センター　講演会

2023年8月8日ザンビアの医療の現状および留学生としての基礎研究・臨床研修の経験と題して，Chihena Banda 先生（ザンビア大学形成外科）の講演を開催しました。

(6) インドネシア保健省のスタッフが医学部附属病院で研修

2023年6月19日（月），【JICA】感染症早期警戒対応能力強化プロジェクトの一環で，医学部附属病院・感染制御部のスタッフが，インドネシア保健省のスタッフ10名を対象に，「三重大学医学部附属病院における感染症サーベイランス」の講義を行いました。



(7) インドネシアAirlangga University医師が医学部，医学部附属病院を訪問

2023年7月19日インドネシアのAirlangga University（アイルランガ大学）のDr. Gadis Meinar Sari とDr. Mega Moeharyono Puteriが国際交流センターを表敬訪問された際，医学部，医学部附属病院にも立ち寄られ，堀研究科長，池田病院長，谷村晋先生と面会されました。両医学部，病院の紹介や今後の両機関の交流に期待する等意見交換を行った後，奥村陽介先生（小児科）らと一緒に病院見学をされました。

(8) ピッツバーグ大学　Dr. Tetsuro Sakai　講演会開催

ピッツバーグ大学麻酔科教授 酒井哲郎先生をお招きし，2023年6月6日（火）18:00～特別講演「卒後医学教育システム：米国流に学ぶことはあるのか？」が開催されました。

肝臓移植麻酔と医学教育が専門の酒井先生に，現在までの苦労話や，米国の臨床教育システムに関してお話いただきました。

2019年，米国麻酔教育学会からベスト指導医として表彰される。

現在は米国臓器移植麻酔学会の会長を務める。

(9) 国際化協議会参加（第5回2022年2月，第6回2023年3月）・国立大学病院長会議将来像実現化WG国際化担当者会議の参加

提言2：「日本の医療の人材・技術・システムを積極的に海外展開し，国際貢献に寄与する」

参加者　池田病院長　説明者：成島構成員

・2023年に三重大学が四日市北ロータリークラブ代表団とともにザンビア大学医学部およびルサカロータリークラブ，在ザンビア日本大使館，在ザンビアJICAを訪問し，マイクロトレーニングセンター設立に向けての最終合意を得た。2024年度は，トレーニングセンター設立のために必要な事項について他大学・医療機関の取り組みなども参考にしながら，マニュアル化を進めていきたい。また，将来的なトレーニングセンター継続性のために必要なサポート体制について，問題点や改善すべき点を明らかにするための検証を行うことを説明し，今後の事業を円滑に行うための資料としていきたいことを説明した。

（10）国際関連にご尽力いただいた先生方のご退任　2023年３月

・堀浩樹教授（医学部長）

小児科医としての診療とともに，医学・看護学教育センター長として14年余りご在職いただきました。日本で最も多くの医学科学生が海外の病院での臨床実習に参加するプログラムを確立し三重大学の教育カリキュラム上，国際化を強力に推進されました。

・村田真理子教授（副学長）

2009年より国際推薦制度（協定校からの留学生に医学系研究科から奨学金を支給）で，中国広西医科大学から大学院博士課程に計８名を受け入れ，丁寧なご指導の結果，多くの研究成果を報告されました。また，文部科学省の国費優先配置特別プログラムにより，バングラデシュ・タイからも留学生の受け入れと日本人の学生・大学院生と交流し，国際色豊かな教室運営をされました。

・ガバザ・エステバン教授（免疫学）

2006年から17年本学の教員として医学部生，看護学部生，大学院生の教育と研究に尽力されました。特に海外から外国人医師や博士課程留学生の受け入れを積極的に行なっていただきました。

国際関連にご尽力いただいた先生方のご退任後も，国際化を進めるため今後も継続して交流を深める必要があると感じています。新たに医学部に着任された先生方にも国際化を進めるため，ご協力をいただけるよう勧めてまいりたいと思います。

（11）グローバルアンバサダー制度によるアンバサダーに医学部より３名就任

下記の三人の先生に三重大学のグローバルアンバサダーにご就任いただき，今まで以上に様々な協定大学との交流を強化したり共同研究を推進していくことが期待されます。

①Chihena Hansini Banda　University Teaching Hospital in Zambia
　留学生として本学に在学修了ザンビア

②Jane Chanda Kabwe　National Heart Hospital, Lusaka, Zambia
　留学生として本学に在学修了ザンビア

③成 憲武　延辺大学医学部 循環器・高血圧内科　学長特認　中国　延辺市

（12）国際関連学会受賞および発表等

第13回日本リハビリテーション栄養学会学術集会English session award受賞

リハビリテーション医学の遠山桃子先生が演題名“Hemoglobin-Geriatric Nutritional Risk Index predicts hospitalization-associated disability in older heart failure patients”にて English session awardを受賞しました。

ORS 2024 tendon section podium award受賞

2024年2月にカリフォルニア州のロングビーチで開催された，Orthopaedic Research Society（ORS）にて整形外科の藤川祐基先生が，演題名「The effects of Fibroblast Growth Factor-2（FGF-2）on Achilles tendon injury」にてawardを受賞されました。

第37回　助産学会学術集会2023年10月3日　シンポジウム

「在住外国人への支援」

座長：五十嵐ゆかり（聖路加国際大学）

演者：西野　裕子（厚生労働省 医政局 総務課 医療国際展開推進室）
　　成島　三長（三重大学大学院）
　　新居みどり（NPO法人国際活動市民中心（CINGA））

5．工学部・工学研究科

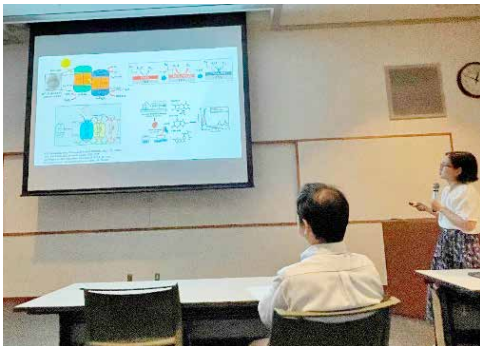
(1) ダナン大学－ダナン科学教育大学Vo Thang Nguyen先生の活動内容

ダナン大学－ダナン科学教育大学（ベトナム）のVo Thang Nguyen先生を9月24日（日）から10月6日（金）まで，外国人教員短期招へいプログラムを利用して三重大学にお招きした。

まず，9月25日（月），26日（火），29日（金）の三日間，集中講義として，10時から12時及び14時から17時まで，工学研究科の国際特別講義Ⅰにおいて英語で授業をしていただいた。Nguyen先生のご専門は電気化学や金属有機構造体（MOF：Metal Organic Frameworks）であるが，本特別講義では，さまざまな専攻に所属する大学院生が受講するので，専門外の人がわかりやすいような幅広いトピックスについてお話をしていただいた。29日（金）については，ベトナムの大学事情や理系学部における女性研究者などの話題について，出席した大学院生と一緒に考えるパネルディスカッションを行った。毎回，授業の出席者は20から25名であった。授業は出席者との対話を多く取り入れ，双方向的なものであった。

9月28日（木）には，講堂小ホールにて開催された工学研究科DF領域の国際シンポジウム（The 13th International Symposium for Sustainability by Engineering at MIU）において，「The Synthesis of Iron Oxide and Its Composite for Electrochemical and Photocatalytic Applications」と題する招待講演をしていただいた。酸化鉄や二酸化チタンとの複合体を用いた環境浄化剤の研究の一端を紹介していただき，講演後には，会場で参加した方々との活発な質疑応答が行われた。

また，滞在の間には，Nguyen先生のご専門に近い応用化学専攻分析環境化学研究室において研究発表会が行われ，大学院生の発表に対してコメントをしていただいた。さらに，滞在中は応用化学専攻高分子合成化学研究室において，学生と一緒の居室にデスクを置いていたので，学生と仲良くなり，鰻，回転ずし，日本食レストランへ一緒に出掛け，学生との交流をしていただいた。そのために，令和6年2月には，大学院生が卒業旅行でベトナムのダナンを訪れ，Nguyen先生に観光案内をしていただくという，個人的な交流にも発展した。最後に，Nguyen先生であるが，MIE-U国際交流協定校外国人若手教員プログラムに採択され，令和6年10月1日から令和7年5月10日まで，工学研究科を兼務する国際交流センター所属の講師として，再び，本学に滞在することが決まったことを付記しておく。



ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施（継続令和５年度）

上記プログラムは，ダブルディグリーに準拠した内容で，長岡技術科科学大学が中心となって日本コンソーシアムを組織しており，2023年時点で日本国内の5大学が参加している（2024年度から6大学）。本学工学部は2016年度より参加し，これまでハノイ工科大学からベトナム人留学生17名が機械工学科・コースの3年次に編入学を果たし，内5名が博士前期課程へ進学している。本年度も，関連行事である「大学紹介」ならびに「集中講義」（担当：中西）をおこなった。2023年10月13日にハイブリッド形式で，大学紹介がおこなわれ，本学はオンラインで参加した。2023年末に編入学試験を受験する3年次学生全員および2年次の一部学生を併せた約30名に対して，機械工学コースや三重県での生活等を紹介した。その結果，3名が第1希望，8名が第2希望として本学を選んだ。翌月の11月6～9日の4日間は，ハノイ工科大学に赴いて，2年次学生約20名を対象に日本語で工業力学の集中講義を45分×15回おこなった。日本語での理解が不十分な場合には，同行したベトナム人修士学生（本プログラムによる本学編入学生）に同時通訳をお願いした。このプログラムを通じて，2024年度4月には機械工学コース3年次に1名が編入学を予定している。

(2) 日本型工学教育を活用した高度産業人材育成プログラム

工学研究科が2023年度JICA課題別研修「日本型工学教育を活用した高度産業人材育成」を開催した。12月1日（金）から12月15日（金）にかけ，カザフスタン（2名），キルギス（1名），トルクメニスタン（1名），ウズベキスタン（2名），モルドバ（1名）の研修生7名に対し，三重大学工学部中会議室において対面で実施された。プログラムの冒頭に森研究科長の挨拶があり，2週間にわたって，様々な講義や見学会が行われた。

本研修では，中央アジアの工学系大学の教員等を対象に，日本の実践的な工学教育の概要，高等専門学校及び工学系大学の教授法・カリキュラム・シラバス，産官学の連携の現状等に関する研修を行い，中央アジア諸国における高度産業人材育成の強化に貢献している。

伊藤学長への表敬訪問

工学研究科・森研究科長との歓談

1日（金）は，プログラムオリエンテーション，インセプションレポート（担当：金子教授）を実施した。4日（月）の午前に，三重大学キャンパスツアーを実施した。午後に，横森コーディネーターが「日本・日本企業の特性，日本企業の人材育成」を概説した。5日（火）の午前に，鈴鹿医療科学大学・鶴岡教授が「日本の工学教育の概要」を講義した。午後に，畫河助教が「工学教育における医工連携」を概説した。6日（水）の午前に，久保教授が「総合大学工学部の特徴・カリキュラム（三重大学を例にして）」を講義した。午後に，鈴鹿工業高等専門学校・甲斐准教授が「高等専門学校の特徴・カリキュラム（鈴鹿工業高等専門学校を例にして）」を講義した。7日（木）の午前に，みえの未来図共創機構・

狩野准教授が「工学教育における知的財産の重要性」を概説した。午後に，三重TLO・加藤代表取締役社長が「工学教育における三重TLOの役割」を解説した。8日（金）の午前に，生物資源学研究科・王教授が「農学・生物系教育の特徴・カリキュラム（生物資源学部を例にして）」を解説した。午後に，JICA・上田大輔研究員が「高等教育協力における国際頭脳循環に係る取組み」を講義した。11日（月）の午前に，国際環境教育研究センター・佐藤客員教授が「オンデマンドを利用した社会人リカレント教育・サイレッツについて」を講義した。午後に，工学部・工学研究科の研究室見学を実施した。12日（火）の午前に，三重県工業研究所・増山主幹研究員が「官（公設試験研究機関）と大学の連携による工学教育」を講義した。午後に，田中コーディネーターの案内により，富士フイルムマニュファクチャリング株式会社を見学した。13日（水）の午前に，田村技術長が，「工学教育における技術員職員の役割」を講義した。午後に，川中教授の案内により，宇野重工株式会社を見学した。14日（木）の午後に，名古屋工業大学・猪股教授が「工業大学の特徴・カリキュラム（名古屋工業大学を例にして）」を講義した。15日（金）に，国別ディスカッションと成果報告会を実施した。

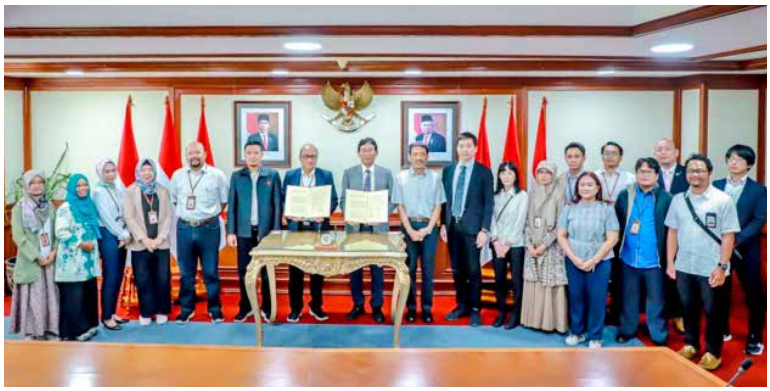
受講した研修生からは，「日本の工学教育を知ることができた」，「産学連携，就職システムなどが興味深かった」，「企業見学もあり，大変参考になった」などの感想もあがり，大変有意義な研修会となった。

6．生物資源学部・生物資源学研究科

(1) 各種JICA教育プログラムの実施

今年度は食料安全保障のための農学ネットワーク（Agri-Net: Agriculture Studies Networks for Food Security）からの研修員の受け入れを行った。また，アフリカ域を対象としたABEイニシアティブ事業（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth），やSDGsグローバルリーダー（SDGs Global Leader）の正規課程学生が在籍し，研究室での研究や三重大学内の国際交流関係のイベントに積極的に参加しているほか，全国の大学との共通科目へ参加している。帰国前にはインターンシップが予定されている学生もおり，非常に楽しみにしている。これらは，研究科がこれまでに整備していたオンライン会議設備やオンライン入試制度により，コロナ禍の残る本年度も事業が継続できた。これからも実績を積み重ね，「JICA開発大学院連携」による教育プログラムにより多くの途上国留学生が本研究科で学ぶことになる。このほか，本研究科の出身者を招聘して青年海外協力隊派遣のセミナーを開催し，参加学生に大変好評であった。本学部・研究科からの学生の派遣のための手続きも進めている。

(2) インドネシア3大学および国立研究革新庁との交流活動



インドネシアのパジャジャラン大学（UNPAD），スリウィジャヤ大学（UNSRI）は，本研究科との間でダブルディグリープログラムを10年以上にわたり実施している重要な交流校である。またIPB大学は農学系のトップ大学であり，本研究科にも継続的に留学生がある。いっぽうインドネシア国立研究革新庁（BRIN）は2021年に既存の各国立研究機関を合併して本格的に設立された省庁に相当する巨大な組織であり，本学からも多数の卒業生が研究者として在籍している。また学生チャレンジ応援事業を利用して本研究科から学生が研究を体験するなど，交流も盛んである。

2023年12月に本学の事業として理事1名，教員2名，事務担当者3名でジャワ島を訪問し，BRIN，IPBおよびUNPADとの交流を行った。BRINでは交流協定の新規締結式を行い（写真），各研究施設の見学も実施した。

IPBでは今後の交流の強化についての話し合いがもたれた。UNPADではDDプログラムのためのJASSOの奨学金の説明を主とし，今後の研究交流等についても話し合いを持った。なお，9月にはUNPADからの訪問団も受入れ，10名以上の若手研究者が多数の参加者に対して研究紹介を行い，活発な質疑応答がなされた。さらに，10月にはBRINから研究者の訪問を受け，講演会を開催している。

スマトラ島のUNSRIには3月に教員1名が訪問し，DDプログラムへの奨学金の説明会を行ったほか，講義を行った。参加者は約100名であった（写真）。

(3)「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」による留学生の受入

2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に工学研究科と共同で提案した「生物資源学と工学からのアプローチによる持続可能な地域と世界の構築をリードする研究人材の展開」が採択されており，3年間にわたって，重点地域である東南アジア各国を中心とする協定校から，8名が生物資源学研究科と工学研究科の博士後期課程へ入学している。2023年度はフィリピンのセントラルルソン州立大学およびマレーシアの国立トレンガヌ大学から計4名が入学した。先行する特別プログラムと同じく，各々の専門領域において高度な研究成果が期待される。加えて三重大学の強みである実践的な環境教育と国内企業におけるインターンシップに取り組み，幅広い視点と地域貢献の方策について理解を深めるものである。

7．地域イノベーション学研究科

(1) 第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2023）

地域イノベーション学研究科では，2009年の研究科発足以来，地域イノベーション学に関連する研究者や学生が集まる国際ワークショップを本研究科主催で毎年開催している。今年度は「The 15th International Workshop on Regional Innovation Studies（IWRIS2023）：第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」を2023年10月12日と13日の2日間で開催した。2020年度から22年度までの3回は新型コロナウィルス感染症の影響により海外からの研究者の招聘ができず，感染症対策のため開催期間を1日に集約するとともにオンラインを併用した開催という制約された状況下での開催となったが，23年度は新型コロナウィルス感染症が5類に移行したことを受け，海外からの研究者3名を招聘し，日程を2日間にするとともに，バンケットも開催されるなど，4年ぶりの対面での開催となった。

今回の国際ワークショップでは，のべ140名の研究者・大学院生が参加し，中央大学校（韓国）Jeong-In Kim教授，カセサート大学（タイ）VIganda Varabuntoonvit教授，チェンマイ大学（タイ）Chatchawan Chaichana教授の3

名の招待講演をはじめ，セッション1「Social Engineering for Regional Innovation」，セッション2「Bio-Science for Regional Innovation」，セッション3「Engineering Ⅰ for Regional Innovation」，セッション4「Engineering Ⅱ for Regional Innovation」の4セッションにより，14件の一般研究発表が行われ，多様な発表と質疑が行われた。

招待講演の様子

大学院生による発表と質疑の様子

集合写真（1日目）

なお，一般研究発表に対しては，アブストラクト及びフルペーパーの査読と英語での発表を評価した結果，1名の発表者に最優秀論文賞，2名の発表者に優秀論文賞を授与した。

本国際ワークショップは，三重地域圏の学際的研究，国際的な共同研究を促進するために，大学の教員と学生，教員と教員，学生と学生が英語で意見交流する場を提供することを目的に実施している。すなわち，学生が英語で研究論文を執筆し，英語で研究発表する経験をし，研究と国際交流に対するモチベーションを向上させ，地域社会を牽引する国際的に活躍する人材の育成を目指して本事業を実施している。本研究科の学生にとっては，この国際ワークショップは英語科目の単位認定に位置づけられており，単に会場の準備や会場係としてワークショップの運営に関わるだけでなく，発表に対して英語で質問をすることで，英語を使ったコミュニケーションの練習の場としても非常に意義深いものとなっている。

Ⅲ 国際交流センターの活動

1．留学生の受け入れ

(1) 協定校からの交換留学生

国際交流センターでは，交流協定のある海外の大学からの推薦により，4月または10月に留学生を受け入れており，最長1年間滞在する。

(2) 天津コンセクティブディグリー（接続学位）

三重大学では2009年から天津師範大学との協定に基づき開始されたダブルディグリー（複数学位）プログラム，その後継として2019年から継続実施されてきたコンセクティブディグリー（接続学位）プログラムが実施されている。2023年度の第5期生は20名の学生が渡日した。

(3) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）

大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生のためのプログラムである。2022年度後期～2023年度前期は，ベトナム，インドネシア，タイ，中国から各1名の計4名を受入れた。指導教員の下でそれぞれのテーマに基づいて研究を進めた。研究成果は2月に中間発表会，7月に研究発表会で披露された。成果は，『日本語・日本文化研修留学生研究レポート集XX』として発行された。

日本語・日本文化研修留学生の研究内容一覧

出身国（出身大学）	研究タイトル	指導教員
ベトナム （ホーチミン市師範大学）	ベトナムの大学における障害者の学生支援について －視覚障害者支援を例に－	福岡　昌子 （国際交流センター教授）
インドネシア （パジャジャラン大学）	日本の歌舞伎文化の展望 －瀧澤歌舞伎を例に－	正路　真一 （国際交流センター助教）
タイ （チェンマイ大学）	タイ語版三重県ガイドの効果とタイ人観光客の意識	松岡知津子 （国際交流センター准教授）
中国 （江蘇大学）	日中映画が日本語・日本文化学習および異文化交流へ及ぼす影響 －『歩いても歩いても』と『一一』における家族の喧嘩場面を例に－	松岡知津子 （国際交流センター准教授）

2．留学生対象科目・プログラム

国際交流センターの教育活動は，授業と海外（語学等）研修に分かれ，授業は主に留学生が対象の「A．日本語・日本文化教育コース」と，英語で学ぶ「B．国際キャリアアップコース」の2つに分けられる。「A．日本語・日本文化教育コース」は，留学生が日本語で受講するクラスが中心で，全学の留学生向けに日本語および日本文化に関する教育を提供するものである。また，「B．国際キャリアアップコース」は，日本人学生と留学生が共に英語で学べる国際共修授業を開講している。

国際交流センター開講科目一覧（2023年度）CIER Class List

コース名Course	科目名 Subjects	曜日・限 Days/ Periods	担当教員 Faculties
初級集中基礎Ⅰ Intensive Basic Ⅰ	総合A/B　Total A/B　（※）	水　7～8 Wed 7-8	松岡 知津子 MATSUOKA
	文法A/B　Grammar A/B　（※）	月　3～6 Mon 3-6	太田 慶子 OOTA
初級集中基礎Ⅱ Intensive Basic Ⅱ	総合A/B　Total A/B　（※）	水　5～6 Wed 5-6	松岡 知津子 MATSUOKA
	文法A/B　Grammar A/B　（※）	木　3～6 Thu 3-6	伊藤 晴苗 ITO
初級集中基礎Ⅲ Intensive Basic Ⅲ	総合A/B　Total A/B　（※）	水　1～2 Wed 1-2	福岡 昌子 FUKUOKA
	文法A/B　Grammar A/B　（※）	火　3～6 Tue 3-6	仲渡 理恵子 NAKATO
中級Ⅰ Intermediate Ⅰ	文法・読解A/B　Grammar and Reading A/B　（※）	月　3～4 Mon 3-4	百瀬　みのり MOMOSE
	作文A/B　Writing A/B　（※）	木 3～4 Thu 3-4	松岡 知津子 MATSUOKA
	聴解A/B　Listening A/B　（※）	月 7～8 Mon 7-8	太田 慶子 OOTA
	会話A/B　Conversation A/B	金 1～2 Fri 1-2	大野 陽子 OONO
	文法A（前期のみ） Grammar A（Only Spring Semester）（※）	火　5～6 Tue 5-6	伊藤 晴苗 ITO
中級Ⅱ Intermediate Ⅱ	文法・読解A（前期のみ）（※） Grammar and Reading A（Only Spring　Semester）	前期：月　5～6	前期：福岡 昌子 FUKUOKA
	作文 A/B　Writing A/B　（※）	前期:木 1～2 後期：水　5～6	前期：松岡 知津子 後期：福岡　昌子
	聴解・会話A/B　（※） Listening and Conversation A/B	前期:水　5～6 後期：月　5～6	福岡 昌子 FUKUOKA
	文法A/B　（※） Grammar A/B	前期：月 9～10 後期：火　5～6	太田 慶子 OOTA 伊藤 晴苗 ITO
	読解A　（前期のみ）（※） Reading A（Only Spring Semester）	火 7～8 Tue 7-8	仲渡 理恵子 NAKATO
	会話B　（後期のみ） Conversation B（Only Fall Semester）	火 3～4 Tue 3-4	大野 陽子 OONO
選択科目 Electives	文字・語彙 1 A/B　（※） Character and Vocabulary 1 A/B	火 1～2 Tue 1-2	大野 陽子 OONO
	文字・語彙 2 A/B　（※） Character and Vocabulary 2 A/B	月　1～2 Mon 1-2	百瀬　みのり MOMOSE
	中級へのステップ・アップクラスA/B　（※） Step-up to Intermediate Class A/B	金　3～4 Fri 3-4	大野 陽子 OONO
	上級へのステップ・アップクラスA　（前期のみ）（※） Step-up to Advanced Class A（Only Spring　Semester）	火 3～4 Tue 3-4	伊藤 晴苗 ITO
	上級総合日本語1 A　（前期のみ）　（※） Advanced Total Japanese 1 A（Only Spring Semester）	木　7～8 Thu 7-8	正路真一 SHOJI
	上級総合日本語2 B（後期のみ）　（※） Advanced Total Japanese 2 B（Only Fall Semester）	月　7～8 Mon 7-8	福岡 昌子 FUKUOKA
	日本事情1 三重の社会と文化　（※） Japanese Culture and Society 1	火 9～10 Tue 9-10	正路 真一 SHOJI
	日本事情3 A/B　留学生と学ぶ日本　（※）（★） Japanese Culture and Society3 A/B	前期：水7～8 後期：水9～10	前期：福岡昌子 後期：正路真一
	初級日本事情（後期のみ）（※） Basic Japanese Culture and Society（Only Fall Semester）	水9～10 Wed 9-10	松岡 知津子 MATSUOKA
	日本語教育入門A（前期のみ）（★） Introduction to Teaching Japanese as a Second Language	水3～4 Wed 3-4	センター教員他 CIER　Faculty
日本語日本文化研修コース Japanese language & Culture Studies	日本語・日本文化演習A/B Japanese & Culture Seminar A/B	金5～6 Fri 5-6	福岡，松岡，正路

コース名Course	科目名 Subjects	曜日・限 Days/ Periods	担当教員 Faculties
国際キャリアアップコース（英語） International Career Development Course（Taught in English）	日本事情２B　英語で学ぶ文化　（後期のみ） Japanese Culture and Society 2B（Only Fall Semester）	金7～8 Fri 7-8	正路真一 SHOJI
	英語でエッセイA/B　（★） English Short Composition A/B	木　1～2 Thu 1-2	マクダニエル・フロイド McDaniel
	世界遺産と私たちA/B　（★） Our World Heritage A/B	金 1～2 Fri 1-2	マホニー・ブライアン Mahoney
	環境問題と地球A/B　（★） Environmental Issues & Our Planet Earth A/B	金 3～4 Fri 3-4	マホニー・ブライアン Mahoney
	三重の社会と文化　（★） The Society and Culture of Mie（English）	火 7～8 Tue 7-8	正路 真一 SHOJI

（※）市民開放科目，（★）教養教育開放科目

A. 日本語・日本文化教育コース

(1) 日本語・日本文化科目

国際交流センターが開講する日本語・日本文化教育コースのクラスを受講するために，外国人留学生は原則として前期3月，後期9月に実施する日本語レベル判定試験を受け，初級基礎Ⅰ～上級までの六つのレベルに振り分けられる。日本語レベル判定試験は，本学独自の試験問題を作成しオンラインで実施した。

(2) 市民開放授業

2023年度は，国際交流センターが開講する授業のうち，前期22科目・後期19科目の計41科目を一般市民に開放したが，受講者がいなかった。

(3) 日本語基礎講座

日本語基礎講座は国際交流センター開講時より開講されてきた。この講座は，学生だけでなく研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間がない外国人たち，外国人留学生の家族も対象とし，日本で生活するうえで最低限必要な会話力をつけることを目的としたものである。

B. 国際キャリアアップコース

(1) 英語による授業

英語で行われる授業の多くは共通教育センター開放授業であり，留学生だけでなく三重大学の学生は誰でも履修可能で，共通教育の単位が修得できる。

(2) 海外短期研修（国際交流センター実施）

2023年度に国際交流センターが主催で実施した海外短期研修は以下のとおりである。

①Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウム

開催期間：2023年12月21日～24日

Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウムは，三重大学（日本），チェンマイ大学（タイ），江蘇大学（中国），廣西大学（中国）IPB大学（インドネシア），メージョー大学（タイ）の6大学が交代でホスト校をつとめ開催する英語による研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。1994年以来29回目となる2023年度は，12月21日から24日にメージョー大学で開催された。４年ぶりに現地渡航した本学からは，学生5名と教職員4名の計9名が口頭発表やワークショップに参加した。

②ベトナム・フィールドスタディ（ベトナム）

開催期間：2024年3月9日～18日

三重大学生とホーチミン市師範大学生によるベトナム・フィールドスタディ2023が行われた。参加学生は，三重大学から13名，ホーチミン市師範大学から30名であり，三重大学生と引率教員2名が，ホーチミン市師範大学を訪問した。

③ワイカト大学英語研修（ニュージーランド）

開催期間：（夏期）2023年9月4日～22日
（春期）2024年3月4日～22日

ニュージーランド国立ワイカト大学にて英語研修が行われた。夏期は7名，春期は5名の学生が参加し，現地でホームステイをして滞在しながら，三週間の英語講座を受講した。

④サウスカロライナ大学英語研修（アメリカ）

開催期間：2023年8月21日～9月29日

アメリカ合衆国のサウスカロライナ大学で英語研修が行われた。2名の学生が参加し，世界各国から集まった学生たちとともに，六週間の英語集中講座を受講した。

⑤タチ大学英語研修（マレーシア）

開催期間：（夏期）2023年8月16日～9月11日
（春期）2024年2月18日～3月15日

マレーシアのタチ大学にて英語研修が行われた。夏期10名，春期14名の学生が参加し，三週間の滞在で現地学生とのバディ制度を通して，文化体験，自然体験，伝統工芸体験，ナイトマーケットなどを楽しんだ。

⑥北京外国語大学語学研修＆フィールドスタディ（中国）＊オンライン

開催期間：2024年1月6日～2月7日

2023年度は，1月6日（土）～2月3日（土）に中国語語学研修を，1月10日（水）～2月7日（水）に三重大学生と北京外国語大学日本語学科の学生との交流活動を実施した。三重大学からは5名，北京外国語大学日本語学科からは14名が参加した。

3．三重大学国際教育交流活動

(1) 海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解2023（日本語ディスカッション）

開催期間：2023年11月8日～12月20日

合計7回オンラインで実施し，5つの国と地域（ドイツ・中国・台湾・インドネシア・日本）から合計21名が参加した。各学生が，毎回グループに分かれて，与えられたトピックについて日本語で活発にディスカッションを行った。

(2) 国際交流Days

国際交流センターでは毎年12月頃に「国際交流DAYS」と称し，留学生と三重大生が交流する場を提供するなど，学生らが国際感覚を身につけるイベントを企画・実施している。

2023年度は，以下のとおり延べ96人がイベントに参加した。

月日	イベント	参加人数
12/12	My Home University（フランス・スウェーデン）	17
12/13	トビタテ！留学JAPAN第16期募集説明会	15
12/15	My Home University（中国・インドネシア）	5
12/18	交換留学説明会	13
12/18	留学生書道体験 Let's Enjoy SHODO	19
12/21	My Home University（ベトナム・タイ）	13
12/24	スポーツ大会	14

【My Home University～私の大学紹介～】

初日には，アール・ゼ・メティエ（フランス），リヨン政治学院（フランス），ルンド大学（スウェーデン）の3 校，2日目には，延辺大学（中国），パジャジャラン大学（インドネシア）の2 校，3日目には，ホーチミン市師範大学（ベトナム），タマサート大学（タイ）の2 校からの交換留学生がそれぞれの出身校を紹介した。母国の大学の魅力を建物や学食，寮などキャンパス内の様子や学内のイベントなど，たくさんの写真や動画を織り交ぜて様々な視点から説明した。発表後には，活発な質疑応答がなされ，参加者は海外での大学生活について知ることができる貴重な機会となった。

【留学生書道体験“Let's enjoy SHODO”】

三重大学書道サークルの学生9名のとても丁寧な指導のもと19名の留学生が日本文化の一つである書道を体験した。まず書道の歴史や道具，筆の持ち方などについて学んだ後，自分で選んだ漢字を何度も書いて練習。初めての毛筆に最初は苦戦していたが，練習を重ねるうちにみるみる上達した。最後にカレンダーに自分の好きな漢字を書き，それぞれ立派な作品を仕上げることができた。

【スポーツ大会】

生物資源学研究科の王秀崙教授主催のもと，本学留学生14名，三重県華僑華人総会会員14名を含む合計29名がソフトバレーボールとバドミントンの2種目を楽しんだ。スポーツを通して互いに親睦を深める良い機会となった。

Ⅳ 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1．留学生支援

(1) 在留資格認定証明書代理申請

在留資格認定証明書（COE）交付申請業務を外部業者に委託し，留学生のビザ取得を支援した。

(2) 新渡日留学生オリエンテーションの実施

例年新渡日の留学生を対象としたオリエンテーションを4月と10月に実施した。留学生ガイドブック（日・英）を用い，三重大学での学生生活を送るための基本的なルール，日本での生活ルール，寮生活について日本語と英語でガイダンスを行った。

(3) 私費外国人特待留学生制度

本学独自の取組みとして2019年度に新設された。本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対し入学金および全学免除を実施しており，2023年度は24名の留学生を特待生として支援した。

(4) 奨学金に関する支援

＜三重大学独自の奨学金＞

・三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として，月額2万円の奨学金を支給しており，2023年度は28名の交換留学生を奨学生として支援した。

・梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しているが，2023年度は，該当者がいなかった。

・三重大学「三重県民共済奨学金」※2023年度で終了

三重県民共済生活協同組合からの寄付金を基に正規課程に在籍する私費留学生を対象として月額5万円を1年間支給しており，2023年度は延べ8名の留学生を奨学生として支援した。

＜各種民間財団等の奨学金＞

各種奨学財団等からの募集に対し，留学生委員会において選考し，国際交流チームにて申請手続きを行っている。2023年度の受給実績は以下のとおり。

奨学金名	受給人数（人）
文部科学省外国人留学生学習奨励費	10
ジャパンマテリアル国際奨学財団	7
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	6
ロータリー米山記念奨学会	1
平和中島財団	1
大塚敏美育英奨学財団	1
MHIベトナム奨学金	1

(5) 留学生への就職支援

日本で就職を希望している留学生を対象とした「外国人留学生の就活セミナー2023」を6月，11月，2023年1月の3度，開催した。それぞれ「就活のスケジュール」,「履歴書の書き方」,「面接の受け方」をテーマとし，延べ参加者数は37人となった。

(6) 三重地域留学生交流推進会議の開催

三重県内における留学生の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図るとともに，地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された会議で，2023年度はオンラインにて7月と2月に会議を開催し，参加各機関の留学生支援の取組状況等について情報交換を行ったほか，今後の地域における就職支援等について多岐に渡り活発な意見交換を行った。

(7) 日本人レジデントアシスタント（RA）

留学生寄宿舎のシェアルームには日本人学生がレジデントアシスタント（RA）として入居しており，国際交流会館および留学生寄宿舎に入居する留学生と日々交流しながら，生活面におけるさまざまなサポートを行った。

(8) チューター制度

チューター学生が新渡日留学生に日常生活に慣れない渡日後3カ月間，学校生活を始めるにあたってのサポート業務です。指導教員の先生が主体となって留学生とチューター学生のマッチングを行い，国際交流チームがマッチング補助を行っている。2023年度前期は，44名・後期は43名の留学生が本制度を利用した。

(9) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）

留学生が民間宿舎へ入居するにあたり，保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し，円滑な入居を支援する制度である。留学生がこの制度に加入することで，三重大学が機関保証人となる。2023年度は21名の加入があった。

(10) 留学生研修旅行

新渡日の外国人留学生を対象に，日本文化を体験することを目的とした研修旅行を年に2回実施している。2023年度は5月に伊賀市と伊勢市を，10月には伊賀市を訪問した。

＜5月　伊賀市・伊勢市＞

6ヵ国・地域の留学生29名が参加し，伊賀市と伊勢市を訪問した。伊賀市では伝統工芸である伊賀組紐で小物作り体験や伊賀流忍者博物館見学等をした後伊勢市に移動し，伊勢神宮の参拝，おかげ横丁散策などを行った。

伊勢神宮内宮　鳥居前

伊賀組紐体験

＜10月　伊賀市＞

15ヵ国・地域の留学生61名が伊賀市の上野天神祭に参加し，地元の方々と共に引き手となってだんじり巡行を体験した。また，上野高校のボランティア学生の案内で街並みを散策しながら日本語と英語で交流を行った。

だんじり巡行

2．海外留学支援

(1) 交換留学生の授業料免除制度

本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について，協定に基づき，派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合，本学の授業料を免除することとしている。

(2) 交換留学

年3回の交換留学学内選考会開催に先立ち，4月，9月，12月に交換留学説明会を開催し，計約90名の学生からの参加申し込みがあった。特にコロナ禍以降初の対面開催となった12月の説明会では開催回を通じ最大数の学生の参加があり，留学機運の高まりを感じさせた。各説明会では参加者に留学を現実的にイメージとして捉えることができるよう毎回留学経験者に参加してもらっている。2023年度はハイデルベルク大学（ドイツ）およびタスマニア大学（オーストラリア）派遣学生に語学資格試験対策や留学のタイミング，現地の生活など留学希望者の疑問点について情報を共有してもらい，有益な場とすることができた。

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第15期採択結果

データ：トビタテ！15期

2023年度（第15期）＜全国コース＞

No.	申請コース	学部	学年	受入機関	採択期間
1	STEAMコース	医	5	テキサス大学　他4か所（アメリカ合衆国他）	2023年8月1日～2024年5月

(4) 奨学金に関する支援

①　三重大学国際交流特別奨学生制度

・外国の大学へ留学する学生への奨学事業

協定大学への交換留学生を対象として15万円を支給している。2023年度は16名の学生を支援した。

・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業

学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合，10万円を支給しており，2023年度は，Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウムに参加する5名の学生を支援した。

② 海外留学支援制度

2023年度日本学生支援機構の海外留学支援制度において，次のプログラムが採択された。

＜協定派遣＞

プログラム名	対象学部	プログラム実施期間	派遣日数	支援人数
ドイツ語／日本語ステップアッププログラム【みえハイム】 Mie - Heidelberg Mutual international student exchange program	全学部全研究科	2023年9月1日～ 2025年2月8日	145日～ 341日	7
多文化共生社会を生きる力を養うニュージーランド研修	全学部全研究科	2024年3月2日～ 2024年3月24日	23日	2
多文化共生能力とアジア圏異文化の涵養に資するマレーシア短期留学	全学部全研究科	2024年2月18日～ 2024年3月15日	27日	12
ニュージーランドの教育改革とグローバル教育を学ぶ海外教育実地研修	教育学部教職大学院	2024年3月2日～ 2024年3月18日	17日	15
アフリカ・アジアの高等教育機関との連携を基軸とする国際保健医療人材の育成	医学部医学科	2023年4月3日～ 2023年6月12日	15日～ 31日	22
三重大学海外フィールドスタディ全学部	全学部全研究科	2024年3月9日～ 2024年3月18日	10日	11

＜協定受入＞

プログラム名	対象学部	プログラム実施期間	受入日数	支援人数
新しい生物資源学のリーダーを養成するインドネシア2大学とのダブルディグリープログラム	生物資源学研究科	2023年12月1日～ 2024年9月25日	300日	1
日本就職に資するマレーシアタチ大学優秀学生の受入れ	工学部	2023年8月1日～ 2024年3月6日	51日～ 127日	6

3．地域の国際化支援

(1) 留学生の地域派遣

三重県内の教育機関等からの依頼を受け，以下のとおり国際交流行事等に延べ76名の留学生を派遣し，地域の学生等と交流を図り，地域の国際化に寄与した。

年月日	依頼元	依頼内容	留学生派遣人数
2023/8/1～8/7	公益財団法人 国際環境技術移転センター	地球環境塾 通訳ボランティア	1
2023/5/20	一般財団法人　日本武芸道国際交流協会	講演会「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」着物・民族衣装モデル	11
2023/6/21	社会福祉法人 日の本福祉会	「学童で国際交流　出身国講師から文化を学ぶ」	2
2023/8/5	栗真町屋町	盆踊り大会	50
2023/8/21	三重県児童相談センター	ハラール料理研修講師	4
2023/10/29	津市国際交流協会	津市国際交流デー　屋台村	5
2023/12/26	四日市大学	留学生日本語弁論大会	1
2024/1/24	松阪子ども支援研究センター	多文化理解授業講師	2

＜2023年7月21日：「学童で国際交流　出身国講師から文化を学ぶ」＞

志摩市で開催された「G7三重・伊勢志摩交通大臣会合」の応援事業として，社会福祉法人「日の本福祉会」は，G7参加国出身者からそれぞれの文化を学ぶ国際交流イベントを開催した。本学からは，ドイツとフランス出身の2名の留学生が講師として参加し，オンラインを含め約1700人の児童の前で出身国の歴史や文化を紹介した。児童らは興味津々

の様子で，「フランスには甘いものがたくさんあるけれど，辛い食べ物はありますか」「いつかドイツに行って大きい教会を見てみたい」など質問や感想が飛び交っていた。

＜2023年8月5日：地域の盆踊り大会への参加（専称寺：津市栗真町屋町）＞

津市 専称寺において開催された盆踊り大会に，国際交流センターで学ぶ留学生および，留学生の日本語サポートボランティアサークル「てらこや」のメンバーである日本人等，約50名が参加した。盆踊りは初めてという留学生が多いなか，炭坑節，津音頭などを教えてもらいながら踊り，栗真町屋町の方々と楽しく交流できた。

＜2023年8月21日：児童養護施設等向けハラール研修＞

三重県児童福祉センター主催で，児童養護施設等の炊事員等を対象にハラール研修が実施され，本学からインドネシアの留学生3名がボランティア講師として参加。施設がムスリムの児童を保護した場合，ハラール料理を提供できるようイスラムの生活習慣や食生活の講義と，ハラール食の作り方の指導を行った。施設の炊事員の方々を含め参加した約20名の方々からは，「講義や資料が大変分かりやすく，大変勉強になった」との感想をいただいた。参加した留学生も「自分たちの国や文化・宗教に興味を持ち，説明の機会を与えてくれたことに感謝する」と述べ，大変貴重な社会貢献，国際交流の場となったようだ。

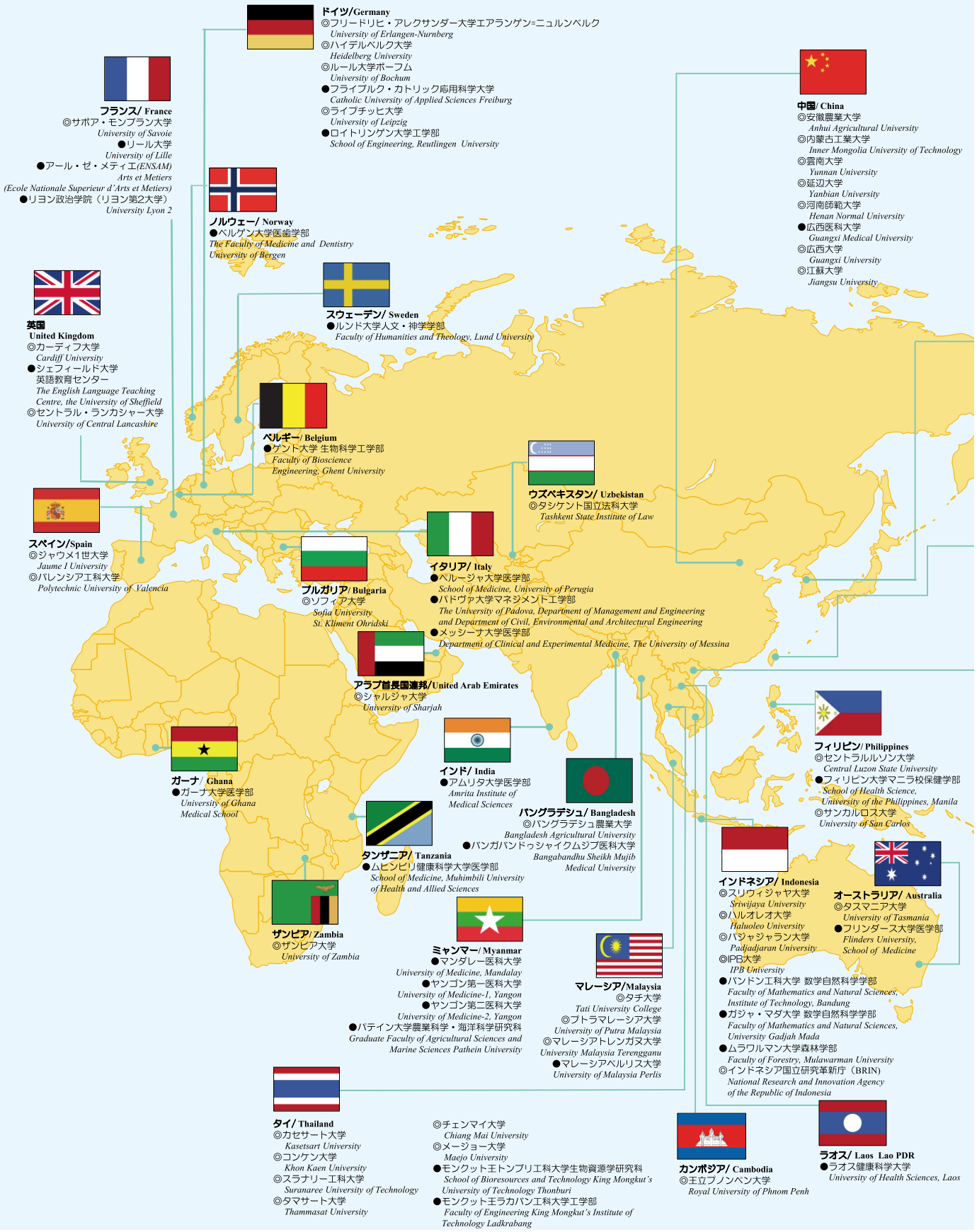
＜2024年1月24日：留学生による日本の学校での多文化理解授業＞

松阪市立第五小学校にて「多文化理解授業」が実施され，マレーシア，フランスからの本学留学生2名が参加し，1年生72名と交流した。このイベントは，松阪市子ども支援研究センター主催で，子ども達が留学生から母国の生活や文化を学び，認め合う意識を養うことを目的に毎年実施されている。今回はの新型コロナウイルス感染症の影響もあり3年ぶりの開催となった。2人は，それぞれの国の食文化や小学校生活などを写真を見せながら日本語で紹介した。

その後の質疑応答では，子供たちは時間いっぱいまで手を挙げて「フランスの好きな場所はどこ」などど質問し，外国の生活・文化に大変興味津々な様子が窺えた。

V 資　料

1．海外大学等との協定締結機関地図



国際交流協定締結機関
International Partner Institutions

◎江南大学
Jiangnan University
◎上海海洋大学
Shanghai Ocean University
●上海交通大学医学部
Shanghai Jiao Tong University School of Medicine
◎西安理工大学
Xi'an University of Technology
●清華大学工学部・工程力学学部
Faculty of Thermal Engineering and Engineering Mechanics, Tsinghua University
●浙江大学理学部
College of Science Zhenjiang University
◎天津師範大学
Tianjin Normal University

●南開大学日本研究院
Institute of Japanese Studies, Nankai University
◎南京工業大学
Nanjing Tech University
◎北京外国語大学
Beijing Foreign Studies University
●北京理工大学外国語学院
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
●蘭州大学第２臨床医学院
The Second Medical College of Lanzhou University
◎鄭州大学
Zhengzhou University
◎華東政法大学
East China University of Political Science and Law
◎吉林農業大学
Jilin Agricultural University
◎上海外国語大学
Shanghai International Studies University

◎中国国家留学基金管理委員会（CSC）
China Scholarship Council

大韓民国/Republic of Korea
◎世宗大学校
Sejong University
◎済州大学校
Jeju National University
◎東国大学校
Dongguk University
●釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋学部
College of Fisheries, College of Environmental and Marine Science and Technology, Pukyong National University
◎梨花女子大学校
Ewha Womans University
◎中央大学校
Chung Ang University
◎啓明大学校
Keimyung University

◎大邱教育大学
Daegu National University of Education

台湾/Taiwan
◎国立高雄師範大学
National Kaohsiung Normal University
◎真理大学
Aletheia University
◎国立中山大学
National Sun Yat-sen University
◎国立金門大学
National Quemoy University
◎南台科技大学
Southern Taiwan University of Technology
◎国立台湾海洋大学
National Taiwan Ocean University
●国立成功大学 化学工学学科
Department of Chemical Engineering, National Cheng Kung University
●文藻外国語大學欧亜語文学院日本語文系
Department of Japanese College of European and Asian Languages Wenzao Ursuline University of Languages

ベトナム/ Viet Nam
◎外国貿易大学
Foreign Trade University
◎カントー大学
Can Tho University
◎ホーチミン市師範大学（教育大学）
Ho Chi Minh City University of Education
●ベトナム科学技術院(VAST)エネルギー研究所(IES)
Vietnam Academy of Science and Technology, Institute of Energy Science
●科学教育大学ダナン大学
Danang University-University of Science and Education

アメリカ/ United States of America
●財団法人クリーブランドクリニック医用生体工学ラーナー研究所
The Cleveland Clinic Foundation Lerner Research Institute
◎ノースカロライナ大学ウィルミントン校
University of North Carolina Wilmington
◎ハワイパシフィック大学
Hawai'i Pacific University
●ワシントン大学医学部
University of Washington, School of Medicine
●東ワシントン大学
College of Business and Public Administration, Eastern Washington University

ペルー/ Peru
◎国立ラ・モリーナ農業大学
La Molina National Agrarian University

フィジー/Fiji
◎フィジー国立大学
Fiji National University
◎南太平洋大学
The University of the South Pacific

ブラジル/ Brazil
◎サンパウロ大学
University of Sao Paulo

ニュージーランド/New Zealand
●オークランド大学教育・社会福祉学部
Faculty of Education, The University of Auckland
◎国立ワイカト大学
The University of Waikato, The University of Waikato college

◎大学間協定締結機関
24カ国・地域　72大学・機関
University Level: 24 Countries/Areas, 72 Institutions

●学部間協定締結機関
24カ国　46大学・機関
Faculty Level: 24 Countries, 46 Institutions

総協定大学数
33カ国・地域　118大学・機関
Total of 33 Countries/Areas, 118Institutions

2024年4月1日現在
As of April 1, 2024

2. 学術交流協定大学・機関一覧

(1) 大学間協定：24カ国・地域　72大学・機関

2024年7月1日現在

大学・機関名		国名	協定締結日		協定更新期日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	江蘇大学	中国	1986年01月15日	1995年09月29日	見直し期間なし	自動更新
2	チェンマイ大学	タイ	1989年08月22日	1996年01月31日	2025年07月14日	自動更新
3	タスマニア大学	オーストラリア	1996年04月01日	1996年04月01日	(一般協定) 2006年(平成18年) 5月11日(見直し期間, 5年又は破棄まで)	自動更新
4	バレンシア工科大学	スペイン	1997年07月04日	2003年01月10日	2026年12月29日	自動更新
5	広西大学	中国	1999年02月22日(1995年04月21日:生物)	1999年02月22日(1995年12月19日:生物)	2022年12月17日	自動更新
6	カセサート大学	タイ	1999年12月23日	2000年07月24日	2024年06月07日	自動更新
7	コンケン大学	タイ	2000年07月17日(1994年08月25日:医学)	2000年07月17日	2021年02月03日	自動更新
8	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク	ドイツ	2001年03月16日	2001年03月16日	自動更新	自動更新
9	東国大学校	韓国	2002年12月16日	2004年03月24日	自動更新	自動更新
10	梨花女子大学校	韓国	2002年12月17日	2004年03月23日	自動更新	自動更新
11	西安理工大学	中国	2003年08月28日	2003年08月28日	2024年03月18日	自動更新
12	スラナリー工科大学	タイ	2003年10月18日(2000年09月08日:生物)	2003年10月18日	2026年04月02日	自動更新
13	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004年03月15日	2004年03月15日	2027年02月28日	自動更新
14	天津師範大学	中国	2004年11月20日(2003年03月15日:教育)	2004年11月20日(2003年03月15日:教育)	2027年12月28日	自動更新
15	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005年12月21日	2005年12月21日	2026年01月12日	2026年01月12日
16	江南大学	中国	2006年02月13日(1998年03月30日:生物)	2006年02月13日(1998年03月30日:生物)	2027年09月09日	自動更新
17	IPB大学	インドネシア	2006年09月24日(2001年09月24日:生物)	2006年09月24日(2001年09月24日:生物)	2022年09月04日	自動更新
18	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007年11月06日	2007年11月06日	2024年04月12日	自動更新
19	タマサート大学	タイ	2008年01月15日(2004年02月27日:生物)	2008年01月15日(2004年02月27日:生物)	2024年06月20日	自動更新
20	南京工業大学	中国	2008年07月07日	2008年07月07日	2024年12月20日	自動更新
21	ハイデルベルク大学	ドイツ	―	2008年12月12日	―	自動更新
22	河南師範大学	中国	2008年12月15日(2005年10月26日:教育)	2008年12月15日(2005年10月26日:教育)	2025年08月18日	自動更新
23	世宗大学校	韓国	2009年02月10日	2009年02月10日	2028年01月24日	自動更新
24	メージョー大学	タイ	2009年03月31日	2009年03月31日	2026年03月25日	自動更新
25	外国貿易大学	ベトナム	2009年05月26日	2009年05月26日	2027年10月18日	自動更新
26	ホーチミン市師範大学(教育大学)	ベトナム	2009年07月28日	2009年07月28日	2025年06月12日	自動更新
27	上海海洋大学	中国	2009年09月24日(1995月10月16日:生物)	2009年09月24日(1996年10月24日:生物)	2020年06月18日	自動更新
28	タシケント国立法科大学	ウズベキスタン	2010年03月22日	2010年03月22日	2026年06月01日	自動更新
29	内蒙古工業大学	中国	2010年03月31日(2000月03月08日:工学)	2010年03月31日(2000年11月13日:工学)	2023年10月24日	自動更新
30	ハルオレオ大学	インドネシア	2010年07月23日	2010年07月23日	2020年11月05日	自動更新
31	ハワイパシフィック大学	米国	2010年09月13日	―	2015年09月13日	―
32	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010年10月04日(2008年12月24日:医学)	2010年10月04日(2008年12月24日:医学)	2015年10月04日	自動更新
33	延辺大学	中国	2010年10月15日	2010年10月15日	2015年10月15日	自動更新

大学・機関名		国名	協定締結日		協定更新期日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
34	サボア・モンブラン大学	フランス	2010年11月04日	2010年11月04日	2023年11月20日	自動更新
35	ルール大学ボーフム	ドイツ	2011年03月28日	2011年03月28日	自動更新	自動更新
36	ジャウメ1世大学	スペイン	2011年04月14日	2011年04月14日	2023年11月06日	2023年11月06日
37	カーディフ大学	英国	2011年07月15日	2011年07月15日	2027年02月11日	2027年02月11日
38	安徽農業大学	中国	2011年10月25日(2008年10月21日:生物)	2011年10月25日(2008年10月21日:生物)	2027年06月13日	自動更新
39	ライプチッヒ大学	ドイツ	―	2012年02月07日	―	自動更新
40	パジャジャラン大学	インドネシア	2012年02月24日	2012年02月24日	2023年03月29日	自動更新
41	タチ大学	マレーシア	2012年05月24日(2010年08月02日:工学)	2012年05月24日	2028年02月02日	自動更新
42	プトラマレーシア大学	マレーシア	2012年08月08日(2006年09月19日:生物)	2012年08月08日	2024年11月01日	2024年11月01日
43	雲南大学	中国	2012年08月20日	2012年12月25日	2017年08月20日	自動更新
44	北京外国語大学	中国	2012年09月21日(2012年03月23日:人文)	2012年09月17日	2017年09月21日	自動更新
45	セントラル・ランカシャー大学	英国	2017年01月31日	2013年04月19日	自動更新	自動更新
46	国立高雄師範大学	台湾	2013年06月18日	2013年06月24日	2027年09月01日	自動更新
47	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013年08月23日	2013年08月23日	2023年12月20日	自動更新
48	フィジー国立大学	フィジー	2014年05月05日	2014年05月05日	自動更新	自動更新
49	南太平洋大学	フィジー	2014年05月06日	2014年05月06日	2019年05月06日	自動更新
50	カントー大学	ベトナム	2014年09月12日	2014年09月12日	2026年10月26日	自動更新
51	国立中山大学	台湾	2014年11月04日	2014年11月04日	自動更新	2026年10月26日
52	ザンビア大学	ザンビア	2014年11月11日(2007年02月07日:医学)	2014年11月11日(2007年02月07日:医学)	2027年01月31日	自動更新
53	国立金門大学	台湾	2015年06月23日	2015年06月23日	2026年10月04日	2026年10月04日
54	サンパウロ大学	ブラジル	2015年07月07日(2011年5月16日:人文)	2015年07月07日	2026年06月24日	2026年06月24日
55	南台科技大学	台湾	2015年08月28日(2014年11月14日:イノベ)	2015年08月28日	自動更新	自動更新
56	済州大学	韓国	2015年09月14日	2015年09月14日	2026年10月20日	自動更新
57	ソフィア大学	ブルガリア	2016年09月19日	2016年09月19日	2026年11月10日	自動更新
58	王立プノンペン大学	カンボジア	2017年01月18日	2017年01月18日	2022年01月18日	2022年01月18日
59	国立台湾海洋大学	台湾	2019年01月03日	2019年01月03日	2024年01月03日	自動更新
60	サンカルロス大学	フィリピン	2019年08月16日	2019年11月25日	2019年08月16日	自動更新
61	中央大学校	韓国	2019年10月14日	2019年10月14日	2024年10月14日	自動更新
62	真理大学	台湾	2020年01月14日(2014年10月21日:イノベ)	2020年01月14日	自動更新	自動更新
63	マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア	2020年07月30日(2017年11月28日:生物)	2020年07月30日(2017年11月28日:生物)	2025年07月30日	2025年07月30日
64	啓明大学校	韓国	2021年08月12日	2021年08月12日	2026年08月12日	自動更新
65	鄭州大学	中国	2021年11月04日	―	2026年11月04日	―
66	セントラルルソン大学	フィリピン	2022年10月18日(2018年08月01日:生物)	2022年10月18日(2018年08月01日:生物)	2027年10月26日	自動更新
67	国立ワイカト大学	ニュージーランド	2023年01月31日	―	2028年01月30日	―
68	華東政法大学	中国	2023年11月28日	2023年11月28日	2028年11月27日	2028年11月27日
69	大邱教育大学校	韓国	2024年02月07日	―	2029年02月06日	―
70	インドネシア国立研究革新庁（BRIN)	インドネシア	2023年12月06日	―	2028年12月05日	―
71	中国国家留学基金管理委員会	中国	2023年08月24日	―	2026年08月23日	―
72	上海外国語大学	中国	2024年02月26日	2024年02月26日	自動更新	自動更新
73	吉林農業大学	中国	2023年11月28日	2023年11月28日	自動更新	自動更新
74	釜慶国立大学校	韓国	2024年05月20日(1995年09月22日:生物)	2024年05月20日(2013年02月06日:生物)	2029年5月19日	2029年5月19日
75	文藻外国語大學	台湾	2024年04月26日(2022年07月19日:教育)	2024年06月07日	2029年6月6日	2029年6月6日

(2) 部局間協定：24カ国・地域　46大学・機関

2024年7月1日現在

大学・機関名		国名	協定締結日		協定更新期日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015年09月10日	―	大きな変更がない限り自動更新	―
2	リール大学	フランス	1989年11月01日	2013年03月15日	自動更新	自動更新
3	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002年01月21日	2005年10月17日	自動更新	自動更新
4	南開大学日本研究院	中国	2010年01月22日	2013年03月18日	自動更新	2018年03月17日
5	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2011年03月18日	2011年03月18日	2021年07月31日	2026年01月17日
6	オークランド大学教育・社会福祉学部	ニュージーランド	2013年08月14日	―	2027年06月30日	―
7	北京理工大学外国語学院	中国	2015年11月16日	―	2024年09月13日	―
8	上海交通大学医学院	中国	2004年08月11日	2009年12月01日	自動更新	自動更新
9	広西医科大学	中国	2006年06月06日	2020年09月01日	自動更新	自動更新
10	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007年10月19日	2007年10月19日	自動更新	自動更新
11	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010年02月18日	2010年02月18日	自動更新	自動更新
12	ペルージャ大学医学部	イタリア	2010年02月22日	2010年02月22日	2010年02月22日	2010年02月22日
13	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011年03月17日	2011年03月17日	自動更新	自動更新
14	ラオス健康科学大学	ラオス	2011年09月26日	2011年09月26日	自動更新	自動更新
15	アムリタ大学医学部	インド	2012年01月30日	2012年01月30日	自動更新	自動更新
16	ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012年12月17日	―	自動更新	―
17	フリンダース大学医学部	オーストラリア	2014年02月27日	2014年02月27日	自動更新	自動更新
18	フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014年06月11日	2014年06月11日	自動更新	自動更新
19	ワシントン大学医学部	米国	2014月08月25日	―	自動更新	―
20	マンダレー医科大学	ミャンマー	2014年11月04日	―	自動更新	―
21	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015年07月23日	―	2018年07月22日	―
22	ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015年10月22日	―	自動更新	―
23	バンガバンドゥシャイクムジブ医科大学（BSMMU）	バングラデシュ	2015年07月27日	―	2020年07月26日	―
24	ベルゲン大学医歯学部	ノルウェー	2016年01月21日	―	自動更新	―
25	メッシーナ大学医学部	イタリア	2019年10月23日	2019年10月23日	自動更新	2019年10月23日
26	清華大学工学部・工程力学学部	中国	1995年10月01日	1995年11月01日	1995年10月01日	1995年11月01日
27	モンクット王ラカバン工科大学工学部	タイ	2005年09月05日	2005年09月05日	2005年09月05日	2005年09月05日
28	浙江大学理学部	中国	2009年03月28日	2009年03月28日	2009年03月28日	2009年03月28日
29	アールゼメティエ（ENSAM）	フランス	2009年08月31日	2009年08月31日	2009年08月31日	2009年08月31日
30	財団法人クリーブランドクリニック 医用生体工学ラーナー研究所	米国	2011年04月22日	―	2011年04月22日	―
31	パドヴァ大学マネジメント工学部	イタリア	2014年02月17日	2014年02月17日	2014年02月17日	2014年02月17日
32	ベトナム科学技術院（VAST） エネルギー科学研究所（IES）	ベトナム	2014年09月30日	2014年09月30日	2014年09月30日	2014年09月30日
33	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015年03月05日	2020年04月29日	2015年03月05日	2020年04月29日
34	ガジャ・マダ大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年01月31日	2019年01月31日	2019年01月31日	2019年01月31日
35	バンドン工科大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年02月19日	2019年02月19日	2019年02月19日	2019年02月19日
36	国立成功大学化学工学学科	台湾	2019年04月12日	2019年04月12日	2019年04月12日	2019年04月12日
37	マレーシアペルリス大学	マレーシア	2021年12月27日	2021年12月27日	2021年12月27日	2021年12月27日
38	科学教育大学ダナン大学	ベトナム	2022年02月24日	2022年02月24日	2022年02月24日	2022年02月24日
39	モンクット王トンブリ工科大学 生物資源学研究科	タイ	2009年10月20日	2009年10月20日	2009年10月20日	2009年10月20日
40	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015年03月09日	2015年03月09日	2015年03月09日	2015年03月09日
41	パテイン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016年12月04日	―	2016年12月04日	―
42	ムラワルマン大学森林学部	インドネシア	2023年06月14日	―	2023年06月14日	―
43	メリーランド大学イースタンショア校	米国	2024年03月12日	2024年03月12日	2024年03月12日	2024年03月12日
44	東ワシントン大学経営・公共管理学部	米国	2017年08月03日	―	2017年08月03日	―

3．2023年度　国籍別・学部別外国人留学生数

(1) 2023年度 国籍別留学生数

	総数	(女子)
36 ヶ国・地域	261	(136)

2023年5月1日現在

国・地域名		【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
アジア	中国	9 (3)	28 (20)	49 (20)	11 (9)	24 (20)	121 (72)
	韓国	14 (4)	5 (4)	1 (1)			20 (9)
	インドネシア			18 (8)		1 (1)	19 (9)
	ベトナム	9 (0)		4 (1)		5 (5)	18 (6)
	台湾		3 (1)	1 (0)	1 (1)	4 (2)	9 (4)
	マレーシア	1 (0)	1 (1)	6 (5)			8 (6)
	タイ		2 (0)	4 (2)		1 (1)	7 (3)
	フィリピン			5 (2)			5 (2)
	バングラデシュ			3 (1)	1 (0)		4 (1)
	ウズベキスタン		2 (1)				2 (1)
	カンボジア	1 (1)					1 (1)
	ミャンマー			1 (1)			1 (1)
	スリランカ			1 (0)			1 (0)
	東ティモール			1 (1)			1 (1)
アフリカ	ガーナ			4 (2)			4 (2)
	ザンビア			3 (1)			3 (1)
	エジプト			3 (2)			3 (2)
	アルジェリア			1 (0)			1 (0)
	ベナン共和国			1 (0)			1 (0)
	ケニア			1 (0)			1 (0)
	モザンビーク			1 (0)			1 (0)
	タンザニア			1 (0)			1 (0)
ヨーロッパ	イギリス		1 (0)				1 (0)
	スペイン				3 (1)		3 (1)
	ドイツ		5 (4)			4 (2)	9 (6)
	フランス		2 (2)		4 (1)		6 (3)
	オーストリア		1 (1)				1 (1)
	トルコ		1 (1)				1 (1)
	ブルガリア			1 (0)			1 (0)
	ベラルーシ				1 (1)		1 (1)
中東	シリア			1 (0)			1 (0)
中南米	メキシコ			1 (0)			1 (0)
	パラグアイ			1 (1)			1 (1)
オセアニア	パプアニューギニア			1 (1)			1 (1)
	ソロモン諸島			1 (0)			1 (0)
	バヌアツ			1 (0)			1 (0)
合計		34 (8)	51 (35)	116 (49)	21 (13)	39 (31)	261 (136)
		85 (43)		137 (62)		39 (31)	

( ) は，内数で女子学生数を示す。

正規生	非正規生
150 (57)	111 (79)

(2) 学部・研究科等別　留学生数

2023年5月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	12 (3)	41 (25)	10 (1)	11 (8)			74 (37)
教育学部・教育学研究科	0 (0)	7 (7)	1 (1)	0 (0)			8 (8)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	18 (12)	0 (0)	19 (13)
工学部・工学研究科	20 (4)	3 (3)	9 (4)	7 (3)	26 (10)	0 (0)	65 (24)
生物資源学部・生物資源学研究科	2 (1)	0 (0)	21 (7)	1 (0)	22 (8)	0 (0)	46 (16)
地域イノベーション学研究科			4 (3)	1 (1)	5 (3)	0 (0)	10 (7)
国際交流センター		39 (31)		0 (0)		0 (0)	39 (31)
計	34 (8)	90 (66)	45 (16)	21 (13)	71 (33)	0 (0)	261 (136)

(　) は，内数で女子学生数を示す。

4．三重大学生の海外派遣

2023年度の三重大学における海外派遣数は，計113名であった。そのうち（1）交換留学による半年～1年の長期派遣の16名，（2）トビタテ！留学JAPANによる派遣が1名，（3）三重大学が提供する海外研修プログラム等による短期派遣が169名，（4）その他，国際学会への参加による派遣が5名であった。交換留学による派遣，海外短期派遣・オンライン実施プログラムの実績は次のとおり。

(1) 交換留学による派遣

現地への派遣

部　局	国・地域名	大　学　名	人数
人文学部	イギリス	セントラルランカシャー大学	4
	ドイツ	ハイデルベルク大学	3
	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	1
	ベトナム	ホーチミン市師範大学	1
教育学部	イギリス	セントラルランカシャー大学	1
	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
医学系研究科	ドイツ	フライブルクカトリック応用科学大学	1
工学部	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
生物資源学部・生物資源学研究科	韓国	梨花女子大学校	1
	ドイツ	ハイデルベルク大学	2
		合　計	16

(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣

部　局	国・地域名	大　学　名	人数
医学系研究科	イタリア，イギリス	ペルジア大学，カーディフ大学他	1

(3) 海外短期派遣・オンライン実施プログラム（部局別）（一部未実施有）

プログラム名	交流大学・機関・企業等	国・地域名	派遣期間	参加学生数
全学対象プログラム				
第29回国際ジョイントセミナー＆シンポジウム	メージョー大学	タイ	1週間	5
ワイカト大学夏期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	7
ワイカト大学春期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	5
タチ大学夏期英語研修	タチ大学	マレーシア	3週間	10
タチ大学春期英語研修	タチ大学	マレーシア	4週間	14
サウスカロライナ大学夏期語学研修	サウスカロライナ大学	アメリカ	6週間	2
ベトナム・フィールドスタディ	ホーチミン市師範大学	ベトナム	5日間	13
北京外国語・フィールドスタディ	北京外国語大学	中国	8日間	5
済州大学語学研修	済州大学	韓国	14日間	1
			全学対象プログラム　計	**62**
全学共通教育センター				
国際理解実践1	シェフィールド大学	英国	25日間	16
			全学共通教育センター　計	**16**
人文学部				
タイフィールドスタディ	タマサート大学他	タイ	9日間	5
オックスフォード大学夏期英語研修	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	2週間	ー
			人文学部　計	**5**
教育学部				
海外教育実地研究B	文藻外国語大学	台湾	6日間	7
海外教育実地研究A	オークランド大学	ニュージーランド	15日間	16
			教育学部　計	**23**
医学系研究科・医学部				
海外臨床実習	ワシントン大学	アメリカ	3週間	6
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	5週間	4
海外臨床実習	アムリタ大学	インド	5週間	2
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	5週間	5
海外臨床実習	カーディフ大学	英国	5週間	4
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	4週間	0
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	5週間	11
海外臨床実習	タマサート大学（タイ）	タイ	5週間	5
海外臨床実習	フィリピン大学レイテ保健学部	フィリピン	5週間	2
			医学科／海外臨床実習　計	**39**
早期海外体験実習	ワシントン大学	アメリカ	7日間	4
早期海外体験実習	コンケン大学及（タイ）及び健康科学大学（ラオス）	タイ・ラオス	8日間	4
			医学科／早期海外体験実習　計	**8**
			医学部・医学系研究科　計	**47**
工学研究科・工学部				
海外短期インターンシップ	タイ，フィリピン，ベトナムの日本企業等		8日間	1
海外短期インターンシップ	タイ，フィリピン，ベトナムの日本企業等		10日間	13
			工学研究科・工学部　計	**14**
生物資源学研究科・生物資源学部				
サマースクール	トレンガヌ大学	マレーシア	23日間	ー
			生物資源学研究科・生物資源学部　計	**0**
			総計	167

5．国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育実績

（2023年4月1日～2024年3月31日）

＜人文学部・人文社会科学研究科＞

2023年度国際交流実績

［I］著書・刊行物

・著書：山田雄司監修・林香淑 译『冷兵器时代很冷很冷的冷知识：甲贺与伊贺』江苏人民出版社，2023年（『戦国　忍びの作法』の中国語簡体字訳本）
야마다 유지 감수・곽범신 번역『센고쿠 닌자 이야기』마나북스，2023年（『戦国　忍びの作法』の韓国語訳本）

・刊行物：科研ニューズレター（英語版）Kyuma, Taiken　Vihāra Project, vols. 8-9,「三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクション」で2023年度にオンライン公開（https://mie-u.repo.nii.ac.jp/）

［II］講演

・山田雄司　淡江大学日本語文学科2023年日本人文知国際シンポジウム　基調講演「歴史と文学の間－『保元物語』崇徳院怨霊譚を中心に－」　淡江大学驚声国際会議ホール　4月29日
・山田雄司　忍者奥秘　三重大學山田雄司教授来台特別演講「究竟忍者的世界裡　哪些是真　哪些是假」日本台湾交流協会　4月30日
・山田雄司・吉丸雄哉・川上仁一　三重県とブラジル・サンパウロ州姉妹提携50周年・ブラジル三重県人会創立80周年・三重県人移住110周年記念　O IMAGINARIO NINJA E SUA REAL FIGURA　ジャパンハウス・サンパウロ　8月21日
・山田雄司・吉丸雄哉・川上仁一　忍者文化研究プロジェクト　レクチャー・デモンストレーション2023（ブラジル）サンパウロ大学　8月22日
・山田雄司　NINJA and it's Image in the world and Japan　ジャパンハウス・ロンドン　9月19日
・山田雄司　「忍者の虚像と実像」ブダペスト Aranytiz House of Culture　11月6日
・山田雄司　「忍者の虚像と実像」ボスニア・ヘルツェゴビナ　サラエボ第三高校　11月9日
・山田雄司　「忍者の虚像と実像」ボスニア・ヘルツェゴビナ　サラエボ大学日本語・日本文化教室　11月9日
・山田雄司　JAPAN DAY「忍者の虚像と実像」クロアチア　ザグレブシェラトンホテル　11月11日
・白石將人「陽承慶『字統』小考」
シルクロードと北朝時期固原区域文化国際学術研討会における基調講演（中国魏晋南北朝史学会）2023年7月18日（招待あり　ZOOM参加）
・白石將人「北魏陽承慶『字統』考」
第四回早期中国経典研究学術シンポジウムにおける研究発表2023年12月17日（招待あり　ZOOM参加）

［III］科研による国際ワークショップ

・Kyuma, Taiken　Vihāra Project Workshop 2023: Monasteries and Secularity in Indian Buddhism（9月8日～10日：大正大学綜合仏教研究所，9月12日～14日：京都大学文学部）
・Kyuma, Taiken　International Online Workshop: Reading a Persian Text on Buddhism（3月22日：オンライン開催）

＜工学部・工学研究科＞

1. P. Stano, K. Tsumoto, Membranous and Membraneless Interfaces—Origins of Artificial Cellular Complexity. Life Vol. 13, Issue 7, 1594, 2023.
2. D. Karna, E. Mano, J. Ji, I. Kawamata, Y. Suzuki, H. Mao. Chemo-mechanical forces modulate the topology dynamics of mesoscale DNA assemblies. Nat. Commun. Vol. 14, 6459, 2023.
3. C. Hüßler, M. C. Dietl, J. Kahle, E. F. Lopes, M. Kawamura, P. Krämer, F. Rominger, M. Rudolph, I. Hachiya, S. K. Hashmi, Synthesis and Structural Properties of Para-diselenopyrazines", Chem. Commun. Vol. 60, p. 3786-3789, 2024.
4. Akira Nishimura, Takaharu Kato, Homare Mae and Eric Hu, Impact of Black Body Material Enhanced Gas Movement on CO2 Photocatalytic Reduction Performance, catalysts, Vol.12, No.470, doi:10.3390/catal12050470, 2022.
5. Akira Nishimura, Nozomu Kono, Kyohei Toyoda, Daiki Mishima and Mohan Lal Kolhe, Impact of Separator Thickness on Temperature Distribution in Single Cell of Polymer Electrolyte Fuel Cell Operated at Higher Temperature of 90 ℃ and 100 ℃, energies, Vol.15, No.4203, doi:10.3390/en15124203, 2022.
6. Akira Nishimura, Daiki Mishima, Nozomu Kono, Kyohei Toyoda and Mohan Lal Kolhe, Impact of Separator Thickness on Temperature Distribution in Single Polymer Electrolyte Fuel Cell Based on 1D Heat Transfer, Energy and Power Engineering, Vol.14, pp.248-273, 2022.
7. Akira Nishimura, Kyohei Toyoda, Daiki Mishima, Syogo Ito and Eric Hu, Numerical Analysis on Impact of Thickness of PEM and GDL with and without MPL on Coupling Phenomena in PEFC Operated at Higher Temperature such as 363 K and 373 K, energies, Vol.15, No.5936, doi:10.3390/en15165936, 2022.
8. Akira Nishimura, Homare Mae, Takahiro Kato and Eric Hu, Utilizatioon from Ultraviolet to Infrared Light for CO2 Reduction with P4O10/TiO2 Photocatalyst, Physics & Astronomy International Journal, Vol.6, Issue 4, pp.145-154, 2022.
9. Akira Nishimura, Homare Mae, Ryo Hannyu and Eric Hu, Impact of Loading Amout of P4O10 on CO2 Reduction Performance of P4O10/TiO2 with H2O Extending Absorption Range from Ultraviolet to Infrared Light, Physics & Astronomy International Journal, Vol.6, Issue 4, pp.186-194, 2022.
10. Akira Nishimura, Daiki Mishima, Kyohei Toyoda, Syogo Ito and Mohan Lal Kolhe, Numerical Simulation on Effect of Separator Thickness on Coupling Phenomena in Single Cell of PEFC under Higher Temperature Operation Condition at 363 K and 373 K, energies, Vol.16, No.606, doi:10.3390/en16020606, 2023.
11. T. Kato, T. Inaba, S, Baba, T. Morimoto, T. Mizuno, Y. Kasai, T, Wisanuyotin, W, Sirichativapee, W. Kosuwon, P. Paholpak, Experimental Study of Failures of the Rigid Spinal Posterior Fixation System Under Compressive Load Conditions: A Cadaver Study, Cureus 16(2), 2024.
12. Le Quang Sang, Qing'an Li, Takao Maeda, Yasunari Kamada, Duc Nguyen Huu, Quynh T. Tran and Eleonora Riva Sanseverino, Study Method of Pitch-Angle Control on Load and the Performance of a Floating Offshore Wind Turbine by Experiments, Energies 16(6), 2023.
13. Arif Dataesatu, Kosuke Sanada, Hiroyuki Hatano, Kazuo Mori, Pisit Boonsrimuang, "Adaptive K-Repetition Transmission Employing Site Diversity Reception for 5G NR Uplink Grant-Free URLLC," Proc. of the 2023 IEEE 97th Vehicular Technology Conference (VTC2023-Spring), June 2023 (10.1109/VTC2023 Spring57618.2023.10200727).
14. Arif Dataesatu, Kosuke Sanada, Hiroyuki Hatano, Kazuo Mori, Pisit Boonsrimuang, "Adaptive K-Repetition Transmission with Site Diversity Reception for Energy-Efficient Grant-Free URLLC in 5G NR," IEICE Transactions on Communications, E107.B(1): 74-84, Jan. 2024(10.1587/transcom.2023WWP0006).
15. D. P. Hastuti, K., S.H. Rhim, K. Nakamura, "Theoretical investigation of spin Hall conductivity in graphene/MoS2 van der Waals heterostructure under external electric field Current Applied Physics," Vol.59, p.71-76, 2024 (10.1016/j.cap.2023.12.012).
16. M. Arifin, E. Suharyadi, A. G. C. Ahmadi, K. Nawa and K. Nakamura, "Enhanced Sensitivity of Magneto-Optical Surface Plasmon Resonance in the FeCu Superlattices," Journal of Physics: Conference Series, Vol. 2696, p.012007/1-8, 2924 (10.1088/1742-6596/2696/1/012007).

＜生物資源学研究科・生物資源学部＞

論文

M. C. W. Arief, A. Sahidin, I. M. Apriliani, I. Nurruhwati, Z. Zahidah, G. Muhammad, A. Komaru. Native Indonesian pond mussel Pilsbryoconcha exilis and alien Sinanodonta woodiana: the potential effect on the future conservation and economic benefit. AACL Bioflux Vol. 16. p. 1092-1104. 2023.

A. Sahidin, G. Muhammad, Z. Hasan, M. C. W. Arief, H. Herawati, A. Komaru. The influence of suspended solids on nacre color and formation in exotic freshwater mussel, Sinanodonta woodiana (Unionidae), from West Java, Indonesia. Aquacult. Sci. Vol. 71. p. 31-43. 2023.

G. Muhammad, A. Sahidin, D. A. Anggorowati, A. Komaru. How the mantle location from which saibo is cut affects cultured Pinctada fucata martensii pearl quality. Aquacult. Int. https://doi.org/10.1007/s10499-023-01276-4. 2023.

M.S. El-Desoky, R. Takeuchi, H. Katayama, N. Tsutsui. Chemical synthesis of insulin-like peptide 1 and its potential role in vitellogenesis of the kuruma prawn Marsupenaeus japonicus. J. Peptide Sci. Vol. 29. e3529. 2023.

M.S. El-Desoky, T. Jogatani, F. Yamane, K. Izumikawa, M. Kakinuma, T. Sakamoto, N. Tsutsui. Identification of an additional vitellogenin gene showing hepatopancreas-specific expression in the kuruma prawn Marsupenaeus japonicus. Fish. Sci. Vol. 89. p. 613-623. 2023.

D. L. Harishchandra, S. Haituk, P. Withee, N. Tamakaew, N. Nokum, C. Kanchanomai, T. Pusadee, C. Nakashima, and R. Cheewangkoon. First Molecular Phylogenetic Identification and Report of Pseudocercospora cannabina Causing Leaf Spot Disease on Cannabis sativa in Thailand. Horticulturae vol. 9. p. 1261. 2023.

Triapitsyn, S.V., Y. Yasuhara, T. Adachi-Hagimori, M. Tsukada Fairyfly egg parasitoids (Hymenoptera: Mymaridae) of the invasive lace bug Corythucha marmorata (Uhler) (Hemiptera: Tingidae) in Japan. Journal of Asia-Pacific Entomology vol. 27.102201. 2024.

P. L. T. Llantada, M. Umekawa, S. Karita. Characterization of bacterial microbiota in the gastrointestinal tract (GIT) of baffaloes using PCR-based analysis. Adv. Anim. Vet. Sci., 12: 479-489. 2024.

P. L. T. Llantada, M. Umekawa, S. Karita. Unraveling the microbial tapestry; exploring bacterial microbiota profiles across the gastrointestinal tract regions in dairy baffaloes (*Bubalus bubalis*). Vet. Integr. Sci., 22: 1029-1053. 2024.

A. O. Owino, Z. Hossain. Correlation Between One-Dimensional Consolidation Coefficients and Different Basalt Fiber Lengths and RHA-Cement Contents in Fiber-Reinforced Stabilized Expansive Soils. Soils and Foundations. Vol. 63(4), 101351. 2023.

N. Nahar, S. K. Khan, Z. Hossain. Impact of Rice Husk Ash on the Compaction Characteristics of Soil. Jagannath University Journal of Science, Vol. 10(2), p. 87–93.2023.

学会発表など

M. Y. Islam, A. E. Atef, A. O. Owino, M. A. Islam, M. S. Rahman, Z. Hossain. Critical Review on Utilization of River Sludge, Rice Husk Ash, and Cement: Sustainability and Implications. 13th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment. p. 471-475. Tsu, Mie, Japan. 14-16 November 2023.

A. E. Atef, M. Y. Islam, A. O. Owino, M. A. Islam, M. S. Rahman, Z. Hossain. Enhancing Soil Stability and Geotechnical Properties of Subgrade Layers Using Rice Husk Ash: A Sustainable Approach for Ground Improvement. 13th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment. p. 463-470. Tsu, Mie, Japan. 14-16 November 2023.

M. M. Alam, M. S. Rahman, Z. Hossain, A. E. Atef, M. Y. Islam, M. A. Islam. A Comparison of the Frictional Resistance of the Ground in Japan and Bangladesh by Stabilanka Geotextile. 13th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment. p. 476-482. Tsu, Mie, Japan. 14-16 November 2023.

M. A. Islam, M. S. Rahman, M. Y. Islam, A. E. Atef, M. M. Alam, Z. Hossain. Investigating the Effect of Rice Husk Ash in the Interface Behaviour of Geosynthetic and Clayey Soil for Ground Improvement. 13th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment. p. 1302-1307. Tsu, Mie, Japan. 14-16 November 2023.

M. S. Rahman, M. M. Alam, Z. Hossain, A. E. Atef, M. Y. Islam, M. A. Islam. Effects of Municipal Solid Wastes on Physico-Chemical Properties of Soil Around Dumpsite at Mymensingh, Bangladesh. 13th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment. p. 1281-1287. Tsu, Mie, Japan. 14-16 November 2023.

Study of L-Theanine on the Cerebellar Granule Neuron, Mai H.M.K. Ibrahim, Tomoko Matsuda, Kenji Kuriya, Hayato Umekawa, Masahiro Nishio, 2023年度日本農芸化学会中部関西支部合同大会，一般演題2B-p01, 2023.10.1.

＜国際交流センター＞

学術論文

1. 福岡昌子（2024）「北京・上海・韓国（ソウル）母語話者の日本語破裂音の範疇知覚」『三重大学国際交流センター紀要』第19(26)号，1-17.
2. 福岡昌子（2024）「留学生の振袖と民族衣装による国際交流：『徳川家康＆服部半蔵in三重大学』」『三重大学国際交流センター紀要』第19(26)号，75-84.
3. 福岡昌子（2024）「北京・上海・韓国（ソウル）母語話者の日本語破裂音の範疇知覚」『三重大学国際交流センター紀要』第19(26)号，1-17.
4. 福岡昌子（2024）「留学生の振袖と民族衣装による国際交流：『徳川家康＆服部半蔵i三重大学』」『三重大学国際交流センター紀要』第19(26)号，75-84.
5. 福岡昌子（2024）「Chapter40　日本語教育のための音韻・音声体系 」『登録日本語教員講座　日本語教師SkiP テキスト3 言語』株式会社リンクアカデミー，28～55（188頁）.
6. 松岡知津子, ボツィアスキ　アンドレ　2024年3月
「マンガにおける文語とキャラクターの関係性」『三重大学国際交流センター紀要19』 pp. 49-61, 2024-03-31
7. 松岡知津子, 奥田久春 ２０２４年３月「三重大学生の短期海外研修の成果と海外への意識―海外フィールド研修を実施して―」『三重大学国際交流センター紀要 19』pp.35-48
8. 奥田久春, 松岡知津子 2024年3月「オンライン海外研修を活用した現地海外研修の意義と可能性 －三重大学ベトナムフィールドスタディを事例に－」『三重大学国際交流センター紀要 30』pp.85-94.
9. Shoji, Shinichi & Noriko Okura.(January 2024). A Collaborative online learning activity (COIL) between Japan and United States of America on culture and language studies. *Journal of Language Teaching and Research, 15*(1) 9-15.
10. Shoji, Shinichi & Jesse Sokolovsky (November 2023). Empathy effects on antecedent salience and anaphor processing in Japanese. *Psycholinguistics, 34*(2). 184-220.
11. Shoji, Shinichi. (October 2023). Students' interests in discussion topics in culture learning class. *Journal of Language and Cultural Education, 11*(2).26-35.
12. 正路真一（2024）「2023年度夏期サウスカロライナ大学英語研修報告」『三重大学国際交流センター紀要』第19号. 85-98.

6．歴代国際交流センター長　一覧

	国際交流センター長
2005年度	亀　岡　孝　治
2006年度	亀　岡　孝　治
2007年度	小　林　英　雄
2008年度	小　林　英　雄
2009年度	松　岡　　守
2010年度	松　岡　　守
2011年度	朴　　恵　淑
2012年度	朴　　恵　淑
2013年度	堀　　浩　樹
2014年度	堀　　浩　樹
2015年度	堀　　浩　樹
2016年度	堀　　浩　樹
2017年度	堀　　浩　樹
2018年度	堀　　浩　樹
2019年度	吉　松　隆　夫
2020年度	吉　松　隆　夫
2021年度	金　子　　聡
2022年度	金　子　　聡
2023年度	金　子　　聡
2024年度	金　子　　聡

●三重大学国際交流ホームページ
（https://www.mie-u.ac.jp/international/）

発行／令和6（2024）年12月
国立大学法人 三重大学
問合わせ先／国際交流チーム
〒514-8507　津市栗真町屋町 1577
TEL 059-231-9924
FAX 059-231-5692
E-mail　koryu@ab.mie-u.ac.jp
ホームページ　https://www.mie-u.ac.jp/international/
印刷／伊藤印刷株式会社

VEGETABLE OIL INK